



天保乙未新刻

俳諧季寄

掌手挑燈

江戸書林万笈堂英氏梓

俳諧手挑燈



目錄

一 四季之詞

但春三月にクハ用ル季有三月は通ハ
右の下に●如此黒星を付置之四季共月断

并 年中諸國祭礼

一 雜之詞

一 天象

一 聳物

一 降物

一 神祇 非神

一 釈教 非釈 并兩部



戀コイ 非恋

迷シラカシ 懷シラカシ 非迷

居所キヨ 非居

夜分ヤ 非夜

衣服イ 非衣

生類キ

旅タビ 躰タテ

無常ムジョウ 哀傷

人倫ジンリン 非人

山類サン 非山

水邊スイ 非水

食類シヨク

植物シユウ 同高低

器財キ 器財付キ

支躰シ 支体付シ

書躰シヨ

風躰フウ

同字ドウジ 字去之ジ 事

同付字之辨ドウブシ

月之辨ツキ

以呂波寄イロハヨシ 手介於兼大藥

名所ナトコロ 名所付ナトコロ

火躰ヒ

病躰ヤマイ

同別ドウベツ 唸ネン

賦物取樣シヨクモノ

花之辨ハナ

名残表 十二句内 十一句ノ月

同 裏 六句内 五句ノ花 是とみほひの花と云

此十八句を一折

二折合テ三十六句也

百韵法

初表	八句内	七句ノ月	十三句ノ花
同裏	十四句内	九句ノ月	十三句ノ花
二表	十四句内	十二句ノ月	十三句ノ花
同裏	十四句内	九句ノ月	十三句ノ花

三表 十四句 右同断

同裏 一折 十四句 右同断

名残表 一折 十四句 右同断

同裏 一折 八句内 七句ノ花 句ひの花と此裏月あり

四十四法

百負の初折ト名残の折ト合テ四十四句ナリ

七十二候

右二折ニ月三ツ花ニツ法百員の候
百負の初折ト二折ト名残の折ト三折合テ
右三折ニ月五ツ花ニツ法百員の候

裏白 六句カ 表斗リスルヲ云

面白 十二句カ 裏斗リスルヲ云

三ツ物 発句股第三マテ三句スルヲ云

月

花

發句ウ振ウ身ウにウケル時ハ初表の月也云

發句ウ振ウ身ウにウケル時ハ初裏の月也云
但一正也ハ才云ハズ
曰ハント云ハ初表の内云云

發句

同

同

同

同

會席

連句

意ウハ振ウ身ウにウケル

祇振ウハ振ウ身ウにウケル 有り無し

尺取ウハ振ウ身ウにウケル 有り無し

速振ウハ振ウ身ウにウケル

引振ウの時ハ才云云云云云云云云

文彦に破英 祇振ウハ振ウ身ウにウケル
連中より合

仙英百負未のり云

一順トハ

一巻のよりの巻席の人教有る第一句のよりのよ

再遍トハ

右の人教の句又一巻のよりのよ

聯トハ

表及秋冬の句のよりのよ二句の意の句のよりのよ

吟声トハ

句のよりのよ

回嶋トハ

吾人よりの二句も二句もはるあとするをよ

獨吟トハ

かせんよりの百ねんよりのよ

両吟トハ

日よりの二句とするをよ

前句トハ

我て有る人の句のよ

遅吟トハ

句のよりのよ

秀逸トハ

よりのよ

巻頭トハ

巻のよりのよ

添削トハ

一巻のよりのよ

即点トハ

よりのよ

批言トハ

よりのよ

加筆トハ 句のゆきふとをきくして去滞るるなり

褒美トハ 句を和免くるるなり

筆句トハ 連中のかに拙筆よりする句はくもなるなり
拙筆句とのめを累してゆきなり

打越嫌トハ 付てはるるかきびして二句なるなり

二句去トハ 付句より二句なるなり

三句去トハ 付てくるるかきびして三句なるなり

字去トハ 付句より三句なるなり

五句去トハ 付句より五句なるなり

夜季ヨロセや竹田タケノエの松マツが凌月リョウゲツ松枕マツマクら入句イリクと終ハヤシ
けちち折面セツメンのりりともいふを

七句去トハ 付句より七句なるなり

面去トハ 百負八面の二面とへらと云はるる表も下も裏も下もとゆき
表裏のをもてはへらとゆき見や下面のこころなり

折去トハ 百負四折の二折とへらなるなり

一ツ二ツ四ツ八ツトハ 形、種、量によりて百句にゆきとゆきなり

訓に四ツ有りの音も四ツ有百千方のとて一割音

名所クニナ 國名ガイミヤウ 在名等クニミヤウ 或官名クニミヤウ 苗字ソウジ 人の名ナ かなに呼ヨブ

名所ナ あり水辺山類ミヅノヘノヤマノルイ ありナ の躰ミナ を遁ノゾク

時々の草木クサノキ 菓クワ 旬段ツキノハジメ 喰物クハヒモノ にナ ありナ の季キ 持モチ なるナ 植物シヨク

とナ のナ 魚イサ 鳥トリ 獸ケモノ あり喰物クハヒモノ にナ ありナ 其季キ 持モチ なるナ 生ナ

のナ 紋モノ 所トコロ 或ナ ありナ 季キ 持モチ なるナ 躰ミナ ありナ

るナ

秋アキ 奠シメ 二度ニタビ のナ 進シメ ともナ 春ハル 後ノチ ともナ 秋アキ

艱ヤブ 父フ 入イリ 秋アキ 二度ニタビ ありナ ともナ 春ハル 後ノチ ともナ 秋アキ

雛ヒナ 三ミ 月ツキ 二度ニタビ 立タテ れナ ともナ 春ハル 後ノチ ともナ 秋アキ

峯ミネ 入イリ 順ジュン 春ハル 逆ギャク 秋アキ 二度ニタビ ありナ ともナ 峯ミネ 入イリ ともナ 斗トウ ありナ 秋アキ

古代コノコ より初表ハジメノウラ の内嫌ウチノイヤシ ひ来ヒキ る物モノ の中ナカ に古人コノコ の名ナ の事コト 聖賢セイケン

公家クダガ 武家ブケ 或ナ 歌人カシラ 儒者ジュシヤ 医者イシヤ 町人マチヒト 百姓ヒヤクシヤウ 能役者ノウヤクシヤ 職人シヨクジン 等トウ

の神祇カミヤ 秋教アキノキウ 意無常イナシヤウ 述懐シヨクヱ 衰傷シヤウキヤウ 等トウ にありナ らるナ 古人コノコ の名ナ

表の内苦カクの尤尤在在ぐくくすくく同名所の事神祇教
教意無常迷懷等ニありる名所並國名町那等表乃
内苦カクの旅各体右同断

野々口立甫夜話云七十二候花信詩抄等之季俳諧取捨
有事也詩歌を引も同断七十二候に蜻蛉鳴ハ夏詩ハ鳴蛙
秋ハありも連俳もに春之和哥に牡丹春花信棟春これ
らを連俳もて夏之此已ちを去りて詩歌候を引或々

詩書等も異様ある季を見出し俳諧を錯乱すべく次
當時の四季正月元朝より極月ハ至細々委く此書に記置
あり不通成る季不用

餘ヨ真マの事古来ハありきなりといつのころより百員乃ハ奉
句ハに發句ありて常の折るるる句ハを繼て表八句裏十
四句月花并ハ太嫌等常の百員の法式少も違へく
百員結ひ次て續く二百員或續く三百員と呼也

百員に一句の物も餘奥あり又出に

但し余奥より二句去三句去の物ハ式に本五句去七句去面去折去物とあり三句去とす

凡

十三

俳諧手挑燈

○四季之部

春

大皞タイコウ帝テイ句ク芒マウ神シン蒼天

東君トウキョウ

詔ミコトノコトワザ光ミツ

夏正カシヤウ

正月

大簇タイソク律リツ立春リツチン節セツ兩水リウスイ中チュウ初陽シュウヤウ青陽

孟春メイシュン 陬月ソウゲツ 睦月ムツキ 端月タンゲツ 初冬月シュウトウゲツ

いざ井月イザイゲツ 冬月トウゲツ

元日	元朝	元旦	元三
雞旦	改旦	機氣	聖節
履端	年始	年頭	改年
甫年	新正	三朝	三始
三元	復新	新春	子代の妻
若の妻	徳代の妻	四方の妻	花の妻
若の妻	乃乃の妻	けの妻	若の妻

あむの妻	日の始	冬の初	乃乃の妻
朝拜	奉立くる	四方拜	腹赤贅
屠蘇	氷乃様	井開	祇園削掛
國栖苗	年徳神	年神	年棚

正

正

あむの妻 日の始 冬の初 乃乃の妻
朝拜 朝賀 奏賀 奏端 群臣 天子と先朝の御一やうと云
屠蘇 天子にかせさる小女尊と云
國栖苗 和民若中の土民多路不勝意と云
氷乃様 元朝おとせさるゆり手時ハ
井開 元朝おとせさるゆり手時ハ
腹赤贅 元朝おとせさるゆり手時ハ
祇園削掛 元朝おとせさるゆり手時ハ
年徳神 年神 年棚

福鍋	押鮎	惠方	楪	かんと祝	穂長	太箸
惠方棚	注連飾	初鶏	俵子	大服	田作	裏白
掛鯛	年男	齒朶	初霞	にー肴	鏡餅	開豆
福藁	庭竈	数の子	齒固	初空	喰積	初曆

曆開	御慶	門松
福壽州	雑煮	弓始
宝船	蓬菜	初夢
万歳	福引	初夢

福壽州 えりや州
 宝船 福元日く
 万歳 福元日く
 曆開 りやうりやう
 御慶 ゾウニ
 門松 りやうりやう
 福壽州 えりや州
 宝船 福元日く
 万歳 福元日く
 曆開 りやうりやう
 御慶 ゾウニ
 門松 りやうりやう
 福壽州 えりや州
 宝船 福元日く
 万歳 福元日く
 曆開 りやうりやう
 御慶 ゾウニ
 門松 りやうりやう

謡初

宝引

若餅

大黒舞

舞初

毬打

葩煎

名ひひ色

彈初

ゆり

水飴

猿まじり

松囃

水祝

春駒

船乗初

吹初

をば弓

をま矢

をこ板

蔵開

鳥追

松の内

船玉祭

店卸

初賣

初買

湯殿初

春永

歳旦開

節振舞

羽子

初芝居

一のうらうらゝのふゆり
初狂言のうらりめ

懸想文

系する初妻ふいかりの
懸想を封て喜ぶ中

の亥のうら
わとあふ

馬乗初

二三ケ日

鏡開

六日年越

若菜摘

忍ぶはむ

とをき摘

七種

佛座 俗四平

鼠麴草 俗母子

藜藜

白馬節會

七日の夜松を庭へ白馬を
白馬の影を陽に照らし合
を後に白馬を走らせ
白馬を走らせ合を後に
白馬を走らせ合を後に

踏歌

男は正月十五日
女は正月十六日
男は正月十六日
女は正月十七日
男は正月十七日
女は正月十八日
男は正月十八日
女は正月十九日
男は正月十九日
女は正月二十日
男は正月二十日
女は正月二十一日
男は正月二十一日
女は正月二十二日
男は正月二十二日
女は正月二十三日
男は正月二十三日
女は正月二十四日
男は正月二十四日
女は正月二十五日
男は正月二十五日
女は正月二十六日
男は正月二十六日
女は正月二十七日
男は正月二十七日
女は正月二十八日
男は正月二十八日
女は正月二十九日
男は正月二十九日
女は正月三十日
男は正月三十日

加比カヒの縁縁 踏フミふと舞マシふ縁縁と引ヒキて花ハナとツクららく 初子ハツコの日日 子の

初寅ハツタラシの日日 結ムスぶ多あり 箕面ヒノハラの富突トミツキ 七日

初卯ハツウの日日 恒トコ吉ヨシ多多あり 十日トウジツ多多びす 宮ミヤ女メ王ヲ祿ロクと後ノチふ 八日 女叙位メノジイ 同上

卯杖ウヅ 初ハツの卯ウの日日 柁シ柳ヤナギふ尺シチ三寸サンサウ切キ枯カ中ナカへ入る 常陸トウリク帯オビれ神事カミコト 麻アサ比ヒの多多多女メありの人数カズ多多あり 時トキその男オトコともれ名ナと

常陸トウリク帯オビれ神事カミコト 麻アサ比ヒの多多多女メありの人数カズ多多あり 時トキその男オトコともれ名ナと 布ヌ比ヒ帯オビにあり 神カミありの中に裏さらうらうらといひ

の多多多といふは 縣ケン召メ 除ノゾク目メといふ二月ニ月ツキ十ジウ日ジツより二日ニ日ツキをおしの人ヒト城シロ 禁キン中ナカへ入るは 任ニ官クワンといふは 任ニ官クワンといふは 任ニ官クワンといふは 任ニ官クワンといふは

御連歌ミツラガ 十一日 武具鏡開ブクキヨウ 十一日 牒ヒラカ閉ト 十一日

左義長サダキナガ 十五 爆竹ハチマキ 網引アミヒキ 十四日 御薪ミカマキ 十一日 百ヒャク

大内オホウチへいといふは 土龍打ツチリウウチ 十一日 粥カユ占ウラ 十五日 御忌ミヨシ 十一日 百ヒャク

上元日ジョウゲンニチ 十一日 小豆粥アヅキカユ 祝イハヒ 同上 三保祭サンボサマ 同上

賭弓カシユ 十八日 弓場ユミバ 破ヤブの字ふとる去 骨ホネ正月トウジツ 廿日 田タ全ゼンを中く 養ヤウ業ギョウといふは

父ウチ不フ盛セキ 破ヤブの字ふとる去 宿ヤク下ゲりハ雜ザツあり

三

角 <small>ツノ</small> ぶ <small>つ</small> む <small>む</small> 芦 <small>アシ</small>	玉 <small>タマ</small> 江 <small>エ</small> 咲 <small>サキ</small> の <small>の</small> 水 <small>ミヅ</small> 鳥 <small>トリ</small> 轉 <small>マゼ</small>	罌 <small>ケ</small> 粟 <small>シ</small> れ <small>レ</small> 若 <small>ワカ</small> 葉 <small>ハ</small>
蓮 <small>レン</small> の <small>の</small> 根 <small>ネ</small> 堀 <small>ホリ</small> ル	鳴 <small>ナド</small> 鳥 <small>トリ</small> 狩 <small>カリ</small>	落 <small>フキ</small> の <small>の</small> 臺 <small>ダイ</small>
猫 <small>ネコ</small> の <small>の</small> 妻 <small>メ</small> 意 <small>イ</small>	野 <small>ノ</small> 大 <small>ダイ</small> 根 <small>ネ</small>	木 <small>キ</small> の <small>の</small> 芽 <small>メ</small>
あ <small>あ</small> ぬ <small>ぬ</small> る <small>る</small> む <small>む</small>	若 <small>ワカ</small> 和 <small>カ</small> 布 <small>ツ</small>	黒 <small>クロ</small> 鳥 <small>トリ</small> 芋 <small>イモ</small>
あ <small>あ</small> か <small>か</small> り <small>り</small>	三 <small>サン</small> 葉 <small>ハ</small> 芹 <small>セリ</small>	根 <small>ネ</small> 白 <small>シロ</small> 草 <small>クサ</small> 芹 <small>セリ</small> く
娘 <small>メ</small> が <small>ガ</small> 萩 <small>ハギ</small>	瀬 <small>セ</small> 魚 <small>イサ</small> と <small>ト</small> 祭 <small>マツル</small>	麗 <small>ウツカ</small>
長 <small>チカ</small> 閑 <small>カ</small>	水 <small>ミヅ</small> 和 <small>ハ</small>	鳥 <small>トリ</small> 轉 <small>マゼ</small>
		菠 <small>ホウ</small> 菹 <small>ス</small>

暖 <small>ヌク</small>	獨 <small>ドク</small> 活 <small>カク</small>	雲 <small>クモ</small> 雀 <small>セキ</small>	畑 <small>ハタチ</small> 打 <small>ウチ</small>	餘 <small>ヨリ</small> 寒 <small>サムイ</small>	蛭 <small>ヒル</small> 子 <small>コ</small>	兒 <small>コ</small> 花 <small>ハナ</small>
遲 <small>オソク</small> 日 <small>ヒ</small>	轉 <small>マゼ</small>	防 <small>フウ</small> 風 <small>フウ</small>	鶴 <small>ツル</small> 旗 <small>ハタ</small>	畑 <small>ハタチ</small> 返 <small>ヘリ</small>	暮 <small>ク</small> 寒 <small>サムイ</small>	芹 <small>セリ</small>
氷 <small>ヒョウ</small> 解 <small>トク</small>	凍 <small>コウ</small> 解 <small>トク</small>	簪 <small>サシ</small>	土 <small>ツチ</small> 筆 <small>ヒツ</small>	鮒 <small>フナ</small> 膾 <small>カイ</small>	種 <small>タネ</small> 物 <small>モノ</small>	烏 <small>カ</small> 芋 <small>イモ</small>
鶯 <small>ウ</small> 鳥 <small>トリ</small>	春 <small>ハル</small> 雨 <small>アメ</small>	牙 <small>キバ</small> 飯 <small>イ</small>	蜺 <small>ヒナギ</small>	芽 <small>メ</small> 花 <small>ハナ</small>	海 <small>ウミ</small> 雲 <small>クモ</small>	野 <small>ノ</small> 老 <small>ロウ</small>

鹿尾

鶯菜

薺

青鰻

薑

干鱈

酢蛤

草萌

膏雨まのる

白魚目指

東風和風

今年去年

まあるぬ

まあるぬ

れま

春麻氏

けいこいふ

椿古代はむ様とをこれと雖

二月

夾鐘

律驚蟄節

春分中

陽中

如月

令月

衣更着

梅見月

小草生月 初花月

中和節朔日

吉野の餅くさうり

同上

春日祭

上申

水間祭初午

行基祭二日

遺教經九日

常樂會

十吉

柱炬火十五日

比良八講日 祇園八講日

浅間祭

廿日

北野御忌日 道明寺祭日

踊念佛時宗

釈奠

二月上丁日 八月土丁日

文宣王顔字二坐 九折モ飾之

二月堂の行

朔日十五日マテ

井戸ありひの目 踊あり 初午初午

初午

初午

くさくさ 赤坂おと佐所は
備へたるのりあり

献生子

朔日ありてまき代敷ふ
の敷の種と入送る

社日 春分前後
後の戌日

昨日藝者ある社前雨
社日の雨あり

治聾酒

社日に酒と社を
耳のまを治る

薪の能 七日より
十日目まで

芝能ともいふ

まを無福も南大門のまの上
ろて能お勤門下の名壇に尻能

まをうらむる能壇と端のりし下初と用と毎まを江戸産の役若三座
ほのりあり勤も南大門向事左右に接敷かや縁入ん物い彩務まき
左右の能と能と能はめりて
能と勤むる能分也

涅槃會

十五日 妙法蓮華經
仏の列

彼岸

中より二日め時正も云
渡のむぐんハ林あり

積塔

十六日

琵琶法師修ス
光孝天皇の皇女乃

忌日ありて所字は産院の
友始る後と恩と謝り

帰鴈 丁の名所

蕨 下蕨 ころもひ手
い糸茶 かきわらむ

燕 舌を治る
日菜日後 乙名

蛙 ころも けつるふ 蠶
あつふ 井の蛙 青蛙

虎杖 さのこへり
ころも

水葱摘 花
コナギ ムム

出留り

新素古素
清状 目足

初雷 虫折雷
初あひり

焼野 畑やく 我やく
山を焼 やけ糸

焼野 焼やく 焼やく
焼やく

蛇穴をい流る

蛇穴をい流る

蝶 けけのてふ
美てふ 白てふ

蜂

似我蜂 くまらち

苗代

種井 種浸
種府 種あき

かぶるかぶる

五加木ウコギ

麻アサ

大根の花ダイコン

虹ニジ

若紫ワシ

餅花煎

鳥の巢トリノネ

銀杏の花イナゴ

彼岸櫻ヒナシ

花と待ハナとまち

初花ハツハナ

馬刀ウマタテ

角落鹿カクノカ

みほとあのみ

二日灸ニヒノヤキ

菜の花ナノハナ

かつら

蒲公ハハコ

狗脊イヌシ

椋菜シロツメクサ

枸杞コウキ

胡葱コウソウ

韭ニラ

まろ

孕鹿ハラムシカ

接木ツギキ

野蒜ノビル

蒸鱧ムシカレイ

鳳巾イカホリ

鯉コイ

孕雀ハラムスジ

接穂ツギホ

引鶴ヒキカ

鳳巾イカホリ

田螺タナホ

蒜ニンニク

雀の子スジノコ

引鴨ヒキカ

三月

姑洗コヘン

花飛

清明節コクワ

竹秋

穀雨コクワ

寄月

季春

禊月

中和

弥生

いよとらひ 様月

上巳 三日 桃旦重三元巳

雛 大裏雛 紙を形 柳うらり

曲水 三日 巳字 盃 羽觴 飛川 上下り 至

鷄合 圖考 片

沙干 俗者 加多 水川 ありとく

己の日に枝 上の巳日川辺 上り

寒食 二月の三日 湯 湯の湯

疫神除の枝 あり

須戸の枝 源氏 經供養 二日 天王寺

高雄法華會 十日

善道忌 十四日

壬生祭 十四日ヨリ 壬生の仏 廿五日マテ 壬生の猿

嵯峨大念佛 十日

千本念佛 寺中のいん

御身拭 十九日 湯の湯 汗あがり 拭く 湯の湯 汗あがり 拭く

人麿忌 十八日 御影供 廿一日 湯の湯 汗あがり 拭く

吉野社會式 十日 浅草祭 十八日 三社 江戸浅草

梅若詣 十五日 順の峯入 送の湯 入秋と 湯の湯 汗あがり 拭く

阿蘭陀 廿一日 湯の湯 汗あがり 拭く

鞆 湯の湯 汗あがり 拭く

春菊	東菊	犬櫻	長春	辛夷	葉柳	葉櫻
檜の花	金鳳花	金錢花	九輪草	木蓮花	梨花	桃の花
小梅の花	仙臺萩	茗荷竹	母子草	丁子草	小手毬	竹の秋
木瓜の花	春蘭の花	蕪枋の花	通草の花	楊梅の花	杏子の花	林檎の花

馬蘭	櫻鯛	櫻貝	柳籠	小鮎	八十八夜	山吹衣
若菰	上り築	鷹の巢	呼子鳥	櫻魚	三月尽	三月尽
五形	柳葉魚	郭公巢	雪小入鳥	炉塞	三月尽	三月尽
小米花	桜うぐい	鷹の巢	引踏箱	火燧塞	三月尽	三月尽

地主祭同上清水

和歌祭同上紀及八瀬祭辰日

戒壇堂開帳八日

嵯峨祭

水屋能三日四日五日南良春日

當六法事十日

中將権
忌日

千團子十一日三井寺鬼子母神詣

花供廿日大所の

神祭柿老柿

神祭柿老柿

三枝祭南川

土塔會天王寺

松前渡のりハ鷹峙入毛とかがり

三枝祭南川

郭公子規時鳥あしひこ鸚鵡あしひこ

鷹あしひこ四手の田長あしひこ勸農鳥あしひこ不如帰あしひこ無常鳥あしひこ

蝙蝠あしひこ蚊あしひこ

蚊あしひこ

螢あしひこ螢あしひこ

卯の花卯のむすこ卯卯のむすこ

筋あしひこ眉あしひこ白菊あしひこ

杜若あしひこ

葵あしひこ二葉葵あしひこ日陰葵あしひこ

橘あしひこ

牡丹あしひこ

花王あしひこ

芍薬あしひこ

夏木立あしひこ

青麦あしひこ

青麦あしひこ

鮎あしひこ

短夜あしひこ

短夜あしひこ

大矢数あしひこ

青東風あしひこ

和清の天あしひこ

新茶あしひこ

養酒あしひこ

玉巻草	玉巻芭蕉	古茶	蘭の花
罌粟の花	綿種蒔	花柚	鴨足草
橘の実	ぬきり下	薔薇	苔の花
桐の花	あぢりあひ	岩藤	柿の花
茶引草	うはや草	一八	手毬花
風車	あうちやく	鳶尾	わくわく草
さくら	苜蓿の臺	踊花	竹の子

岩梨の花	黄櫨の花	若楓	筍
木の糸	石薺の花	藪椿	すゝのこ
蓮若葉	根穀の花	蓼	きししくのむ
蓮のやわ	厚朴の花	蔞	利根草
蚊帳	椶櫚の花	紫蘇	紙帳
えくまげ	柑子の花	檳柑の花	九年母の花
橙の花	金柑の花	雲州橘の花	

百草と戦タカシ 五月の草と合ハルコ

騎射キヤ 五日右近のままつらひカサネ 湯の虎とカサネ

水馬ミヅウマ 五日あまのりカサネ 水馬ミヅウマ 五日あまのりカサネ

皂車ソウシャ 同松の車カサネ 定と車カサネ

印地打インヂウチ

賀茂の競馬カモノケイバ 五日うらぶカサネ 賀茂の競馬カモノケイバ 五日うらぶカサネ

住吉御田植ズキミミタウエ 廿八日

生玉流鏑馬イクタマヤブガサ 五日

山田御田植ヤマタミミタウエ 同上

伊勢山川祭イセサカガハシ 八日山田山川カサネ 伊勢山川祭イセサカガハシ 八日山田山川カサネ

有無の日ウツクシノヒ 廿五日日終日カサネ 有無の日ウツクシノヒ 廿五日日終日カサネ

紙園御輿洗カミヅノミミヤウエ 晦日夕カサネ 紙園御輿洗カミヅノミミヤウエ 晦日夕カサネ

寂勝講サイシヤウカウ 清凉殿カサネ 寂勝講サイシヤウカウ 清凉殿カサネ

夏至カサネ 五月のカサネ 半夏至カサネ 夏至カサネ

五月雨イツキアメ 五月の雨カサネ 五月雨イツキアメ 五月の雨カサネ

入梅イロウメ 梅カサネ 入梅イロウメ 梅カサネ

青梅アヲメ 梅カサネ 青梅アヲメ 梅カサネ

鶉川ウツカガハ 鶉カサネ 鶉川ウツカガハ 鶉カサネ

羽めけハネメケ 羽カサネ 羽めけハネメケ 羽カサネ

黒鴨クロカモ 鴨カサネ 黒鴨クロカモ 鴨カサネ

雌蜺メノボ 蜺カサネ 雌蜺メノボ 蜺カサネ

鵄舌トビシタ 舌カサネ 鵄舌トビシタ 舌カサネ

百合 あざむらぎ 花のこぼり

田植 あさくさ 田うゑ

早瓜 あさきり 白あけ

鏡普草 あざむらぎ 花のこぼり

未摘花 あざむらぎ 花のこぼり

蝸牛 あざむらぎ 花のこぼり

照射 あざむらぎ 花のこぼり

麥刈 あざむらぎ 花のこぼり

覆盆子 あざむらぎ 花のこぼり

紫陽草 あざむらぎ 花のこぼり

忘草花 あざむらぎ 花のこぼり

樗 あざむらぎ 花のこぼり

鯢狩 あざむらぎ 花のこぼり

入梅松 あざむらぎ 花のこぼり

石葛 あざむらぎ 花のこぼり

夏菊 あざむらぎ 花のこぼり

枇杷 あざむらぎ 花のこぼり

若竹 あざむらぎ 花のこぼり

天蓼 あざむらぎ 花のこぼり

藻の花

藻と刈

藻刈舟

萍の花

菱の花

天南星 あざむらぎ 花のこぼり

早松茸 あざむらぎ 花のこぼり

早初茸 あざむらぎ 花のこぼり

生胡桃 あざむらぎ 花のこぼり

青山椒 あざむらぎ 花のこぼり

榎の木焼 あざむらぎ 花のこぼり

南天の花

ひまわり花

さくらんぼ花

下野花

びんがね花

茄子 葱 根芋 茗草 青田 胡瓜 蘭

栗の花 茨の花 榊の花 法をい 田舎取 稗時 稻時 稻時

桑の實 花菖蒲 朝露草 青小豆 粟時 荏時 玉簪

六月法 花柘榴 和布と刈 青さくけ 馬齒草 胡麻時 青さくけ

梅花 藻打 鮎 藜 莧 蟹 黒さく

蚊帳艸 水麩 水馬 蠅螂生 水鳥の巢 蓴 白さく

合歡の花 水鱧干鱧 水雞 蛇衣脱 鴨の浮巢 鳧の羹 毛むし

あぐりめ刈 干鰓 青さく入 蜂の初産 蛆 毛むし

沖のまけまぐられを黒さくさくさく
白くくろくろくと白さくさくさく

六月

林鐘律 小暑節 大暑中 季夏 瓜期

旦月 遯月 水無月 風待月

鳴神月 常夏月 陽氷

賜氷節 一日 氷の貢 氷室 氷餅祝 日

一夜酒 麻地酒 醴粉酒 富士詣 一日ヨリ 坊離

六月會 四日 天台宗 祇園會 七日 清社より四條系松の涉旅不ぞ神輿

御躰の御卜 十日 神祇友の友人 玉辭に赤字

津島祭 十四日 舟祭 執田祭 十四日

嚴嶋祭 十五日 竹生島祭 博田祭 十六日 江戸山王祭 十五日

御手洗詣 廿日ヨリ 鞍馬竹切 廿日 伊勢祭 礼十六日

愛宕千日詣 廿四日 大坂座産祭 廿三日

賀茂水無月之能 廿日 橋立祭 廿五日 住吉御祓 廿日

唐崎祭 廿日 施米 東山北山西山なるの山さのたけのりき傍の

小蠅を以神 大坂の首八番尾四番に花めくる 大坂 廿日 後川

夏より夕暮りくわりの夜
この後にはひま

形代 川後まんの形を伴う川
あはれ天竺をまわりの

撫物 日
こんとくも後

夏神樂 ころもくろく

三伏 夏の後の庚の日の初
伏の初の日末

涼月涼 涼の涼
伏の伏

京四条の涼 七日ヨリ 川の舟小舟をわらう
十八日ヨリ 舟を補給する

川社 夏秋 川をよみねとくま
神をまつる

菅貫 具也 枝之
茅の輪 ちうく

鎮火祭 廿日ト初氏のゆい
火除除の祭

雷鳴の陳 雷をまて交るれを
大おひつ近来の次お

座頭涼 十九日
伏の初の日末

紅の涼 十九日ヨリ
廿日ヨリ

江戸兩國橋の涼 秋の涼
六月の月を夜涼上に群集

嘉定錢 十六日 暖戦天竺僧の財宝のたかぶつ十六文と以
此日後供と後くを例と用る

泉 泉殿 滝殿 汗 汗をぬぐい
水閣 泉風 汗 あせ拭ひ

土用干 虫干 團 団 団 団
虫拂 団 団 団 団

心太 心太 心太
井 井戸 井戸

麻 麻引 青苧 夏引糸
新苧 苧 苧

瓜 瓜 瓜 瓜
梵天丸 瓜 瓜 瓜

清水 清水 清水
清水 清水 清水

楮の花 楮の花
紙に成る

夕顔 テヒキウシク

夢 ユメ

蓮 ハス

射干 シヤカ

夏虫 ナツムシ

神鳴 カミナリ

青瓢箪 アヲヒヤウタン

撫子ナホシコの花 石竹

蓮 ハス 荷葉水芙蓉 荷の葉の白蓮

百日紅 ヒヤクニッソウ 紅蓮 蓮の花より

蝉 セミ 海松 ウミマツ 萩 ハギ 空花 ソラバナ

蠓 ハチ 蠟 ロウ 夕立 ユキダレ 蒜根 アヒ

南瓜 ナンプウ 夜鱈賣 ヨアサダ

沖膾 ウキナヒ 上州新絹 ウツチノシラヌ

江戸初鮭 エドノハツサケ 六月十五日を瀬川河合

せこ セコ 膾 ウキ 大屋の魚

陸 リク 魚 イサ 日野 ヒノ

石尊 イシタカ 極暑 キョクショ

綿の花 ワタノハナ 醬油造 シヤウユウゾウ

葛の花 クダマノハナ 納豆造 ナトウゾウ

薄暑 ウスナツ 炎天 エンテン

あつき日 アツキヒ きのり物 キノリモノ

青蕃椒	蒲の穂	白麻刈	藍と刈	菅と刈	蘭と刈	菱の花
扇の尾花	けりうひ系	麒麟草	昼顔の花	竹の皮抜	奈良漬	醬造
水飯	葛水	藿乱	風薫	温風	日傘	日盛
洗ひ飯	砂糖水	香薷散	水引粉	振舞水	麻羽織	麻頭巾

赤草	林檎	鷹羽はくひ	青鬼灯	干飯	夏枯草
早桃	澤泻	杏子	鳥糞搗	道明寺水	茗荷の子
楊梅	風蘭	河乃ね	杏	煮冷	洗鱸
眼皮	凌霄	李	鷺草	雲雀鷹	金龜虫
					海月取

二

二

鯖釣

夏の別

夏果る

夏の限

夏まで

秋を隣

秋をき

こぬ秋

秋を待

秋

少皞帝 蓐收神

爽頼

旻天

白蔵

金商

七月

夷則律

立秋節

處暑中

孟秋

桐秋

初秋

首秋

明景

桐月

文月

蘭月

女郎花月

七夕

七日御節會

硯洗机洗

七度喰

星の手向

詩哥連俳七夕會

三ツ星

彦星

織女

牽牛

女七

男七

星の契

あまの川

あまの川

銀河

銀浪

銀漢

の川

星合の濱

かさねふの橋

雁鵲の橋

紅糸の橋

妻迎船

乞巧奠

産の立琴

乞巧針

七孔の針

糸とを

手向

七種の船

菖花を以て舟と飾

七夕たむく

萩の舟

尾を

秋の七

と

つ

七箇の池 七箇の水に
星を移し

飛鳥井家七夕の鞠

池坊七夕の立花

荷前の使 天子より諸廟へ
勅使きたり

文殊會 八日 六道参 九日

清水千日詣 日 楨買 六丁糸のたき
涙と異ぬり飾

盃蘭盆 盆供
せがき 諸寺施餓鬼 一日より
十五日迄

梶比葉 七夕のたけまき
虫の手向

御門跡籠花 早むらさ
他物あり

撰待 門ト葉ともり
はるの人はあまき

逆の峰入 本山七月
當山八月

聖靈お迎鐘 同上

焰魔参 十六日

盆市 聖霊蓬
聖霊竹

芋売 土器
手向物

むし火焚

靈祭

聖霊棚

玉棚

棚經

根芋

枝豆

青さけ

いづら

青柿

青梨

青桃

前尾草

粟穂

稗穂

稻穂

瓜の馬

茄子の牛

うけそ

えん

えん

送り火

鹿ヶ谷

大文字

愛宕

鳥井

三井寺女

詣月

十五日

松ヶ岡

妙法

舟岡

舟形

夏書納

經木流

題目踊

松ヶ岡

中元

七月

盆のほり入

伊勢山田

おのり

乃

室物

扇置

扇

生身靈

父母おのり

おのり

乃

新綿の奏 十六日 頁物

小結 奈角力
初司 古儀入

踊 小町おどり
いせおどり

一葉 相のまふり
一葉かき

萩 萩のまふり

萩は一多つたて枯若くすうりむ咲は本萩を
系萩あはし次弓をすふゆるふくぎ野乃

萩 萩のまふり
萩のまふり

筮萩 百元萩

薺 牽牛花
朝貞

槿花 げけの
これ

槿花 一日の栄あり
薺 一時の栄あり

とくはく 女郎花

花とくはく 男良花
花とくはく

薬師草 弁切草
鶯の草

益母草 益母草
仙翁花 紅梅

桔梗 けいげい
さくらうり

蘭 蘭
翁草 菊

蓮の实 飛 蓮の实と
斗はるこ

蘭 蘭
翁草 菊

藻にまむ虫のまむに鳴る

秋の虫
らん

虫 鳴る
らん

蓑虫 鳴る
父

鳴る
らん

蚕 蟋蟀
等

蛸 蛸
夕

蚕 田虫

蜻蛉 蜻蛉

秋の螢 螢

蛸 蛸

秋の胡蝶 アキコテフ てふはあきと結び 秋津虫 アキツムシ とんがりやんま

松虫 マツムシ くまのこ 虫撰 ムシエラミ 虫合 秋風 アキカゼ 初風

鳥屋出の鷹 トリヤデノタカ 鷹の山列 露 ツユ あきあき 今秋の秋 イマアキノアキ 新涼 シンリョウ

鳩吹 トビフク 鳩の吹 早稻 ワセ 早稲 初て涼 ハジメテスズシ 冷酒 ヒヤメシ

あつ麦 アツ麦 常山の花 トウサンノハナ 西爪 サイツメ

鈍豆 ノボロマメ くらげの虫 クラゲノムシ 番椒 バンカシ

犬子艸 イヌコソウ 小車花 コクルマハナ 柳散 ヤナギサン

芭蕉 ハセウ 茗荷の花 ミヤウカノハナ 桐 キリ

あひ糸 アヒイト 鬱金の花 ウツキンノハナ 楸 クサキ

焼米 ヤキコメ やいばら ヤイバラ 曙 トヨヒ

垣豆 カキマメ すまふ糸 スマフイト 花火 ハナヒ

糸の毛 イトノモ 花火 ハナヒ

毘麻 ヒマ 花火 ハナヒ

ちんこ チンコ 花火 ハナヒ

木瓜の実 ボケノミ 常山の花 トウサンノハナ 西爪 サイツメ

桃の実 モモノミ くらげの虫 クラゲノムシ 番椒 バンカシ

黄柳 ワウリウ 小車花 コクルマハナ 柳散 ヤナギサン

糸の毛 イトノモ 鬱金の花 ウツキンノハナ 楸 クサキ

毘麻 ヒマ やいばら ヤイバラ 曙 トヨヒ

ちんこ チンコ すまふ糸 スマフイト 花火 ハナヒ

槐花

絲瓜

觀音草

茶調虫

夕負別當也紫葛

八月

南呂律白露節秋分中仲秋

壯月

桂月竹春朏月葉月

鴈來月

秋風月月見月

八朔

繪行器 絲雀 當日禁中之式有

田面祝

田実祝

天中節

朔日

秋社

秋分近き戌の日より 五穀の神を祭る

堺天神祭

三日 四日

北野祭

四日

白鬚開帳

五日

八幡祭

十五日

放生會

十五日 十六日

阿野津八幡祭

十五日

伊勢

豊浦八幡祭

日 上

長門

鶴岡八幡祭

日

宇佐八幡祭

日

豊前

箱崎八幡祭

日

筑前

志賀八幡祭

日

深川八幡祭

日

江戸

板鼻八幡祭

日 上州

司召

十一日 系官の六位以下を以て 兼將とす

菅大臣祭

歎活杖乃祭

いのかまの首掲述の社としてありて、いづれ一羽の首 刑法と云ふに、いづれ一羽の首の死罪の

澁鮎カサ 落鮎

下築カサ くれ築

うぶ兒築

薄カサ 志のすき

薄紅葉カサ 尾花りと秀尾むすぶ

薄カサ 志のすき

薄紅葉カサ

蓼の錦カサ けそ

葛カサ ますぐさすぐさ

志カサ 紫苑

月草カサ 露艸

花紫カサ たん

藍の花カサ 花

鴈来紅カサ 兼雞頭

茴香カサ 實

のり瓜カサ 錦文字

蒲葦カサ 宇治カサ 花園カサ 草花也 非正花

こぶカサ 沢桔梗

稻乳カサ 乳のこくちなる

擠カサ 稲カサ 稲カサ

八束穂カサ 新米カサ 秋の田カサ 田と古田の志付田の志見

二百十日カサ 二百十日目カサ 東呂子カサ 東國カサ

案山子カサ 木綿取カサ 芋カサ 牛房引カサ 薯蕷堀カサ

栗川カサ

菜種カサ 詩カサ けし

栗川カサ

種瓢箪

牡丹の分根

稗刈

種夕顔

菊の付

稷刈

種南瓜

くらくら

菜萱

種茄子

くらくら

薬堀

鳳仙花

曼陀羅華

茜堀

雞頭花

百部桂

鶉草

金剛草

蕎麥の花

野菊

百夜草

くらくら

鬼灯

鴨上戸

木犀の花

綾紅

若菜若

うすのび

通草

木芙蓉

葱

うすのび

冬瓜

大豆引

小角豆引

三七花

江鮭

かどろ

太刀の魚

竹の春

初汐 八月の大汐

野分 八月の大風

はるの帰

花壇 草花

枯 夜打 きぬお 田子打

九月

無射

律

寒露節

霜降中

季秋

玄英

季商

紅樹

菊天

素秋

舞射

残秋 未秋 玄月 晚秋 涼秋

菊月 陰形 杪秋 ありの月 終る月

のひら月 本深月 本末の秋 小田刈月

重陽の宴 九日重九 菊且菊節句 菊酒重陽 栗且栗節句

九日小袖 菊重衣 紅葉衣 紅葉の玉器 後の雛 おかしのひな

足袋のきり初秋 不堪田の奏 七日是は後田の 扶亡の所を

桂宮相撲 八日 泉涌寺舍利會 八日

醍醐祭 九日 能なり 御香宮祭 九日 伏見 鞍馬祭 廿日 貴布祢祭 九日

生玉祭 九日 大坂 四宮祭 九日 大津 下鳥羽祭 十日 例幣 十一日

白川祭 十一日 岩倉祭 十一日 北山 栗田口祭 十日 一宮祭 十一日 河内

岡崎祭 十六日 東山 木幡祭 廿日 鹿谷祭 廿四日 逆髪祭 廿四日

北山祭 廿日 鳴瀧祭 廿八日 津村祭 廿七日 津岡

天王寺一条會 十四日 太秦祭 廿日 小倉祭 十五日

八幡花の頭 廿日 天満鑄流馬 廿五日 大坂

秋の月

くれの秋

秋より後

の秋

秋果る

秋の名跡

秋がしむ

冬と隣

冬

顛頊

帝玄冥神

律檀

上天

元英

羽音

十月

應鐘律

立冬節

小雪中

孟冬

折木

初冬

玄帝

泰正

上冬

始氷

方冬

新冬

小春

亥冬

早冬

かゝれ月

女陽の月

くれ月

初霜月

神無月

伊弉册尊神のりまうりく陽をた月夜を神月といふ
今法作出さすの天はくうりるひ出さすこし八神のり月

と云せりを用
みまうせおく

神の旅

神送一日

神の留主

神集

大社の神事

中夜

神立風

宇津田

神終

下元

十

玄猪の餅

初の亥の日
子孫ある業にあらざる

進爐炭本の 燹糟喰同上 拜墳同上

興福寺法華會六日 東福寺開山忌十六日

法勝寺大乗會廿八日 金毘羅祭十一日

達磨忌五日 十夜の念佛日より十八日まで法去宗

維摩忌十日 日蓮御影講十二日 法花宗 御取越一向宗 祖師

親鸞上人の忌日十月廿六日日本願寺にて大法のり来古義

惠美酒講廿日法必高入 誓文拂 惠美須の膳賣買 茶の口切

爐開わかれ 巨燹切をこ 炭炭竈 炭燒 賣炭 輪炭

池田炭 熊野炭 櫻炭 冬籠炭取 炭棧 白炭 櫛田舎つと大キある本の根と

桐火桶 ぬすのふり 綿綿の糸 頭巾くちしん 蒲團あけぬい

衾あふすぬ 紙紙の衾 柳のろろ 紙衣紙子羽織

鐘かね 月つき 萩はぎ 紙衣紙子羽織

鐘かね 月つき 萩はぎ 紙衣紙子羽織

鐘かね 月つき 萩はぎ 紙衣紙子羽織

初氷

葛かろ

綿子

後りじ

寒菊

菊うら

足袋

あがり

鴨鷹

落のり

石落

革羽織

鯉

茶のむ

山茶花

冬木の櫻

鰻

冬牡丹

八手の花

枇杷の花

飯花

飯花のり

菜ゆ

かき

蕪引

大根引

納豆汁

水漬

芋のり

風木枯

枯野

枯野のり

落葉

おのり

川音の響

霜

おのり

月の影

初雪

おのり

液雨入液

水鳥

秋砂

鴨

千鳥

おのり

鴛

おちむら

おのり

三下し

生海鼠

このころ

綱代

氷魚

このころ

夜興

妙音講

諸国座頭の祭也十月十日曾一郡の座頭仲間寄合宦列と平一弁天妙音井

の尊像とく種々供物と備へ順番は平家あしくとかがり通夜すらく

十一月

黄鐘律

大雪節

冬至

中周正

朔駢

霜晨

氷壯

星紀

畧知

芸生

宵氷

仲冬

盛冬

冬半

陽復

子月

鴨月

復月

霜月

天正月

霜降月

雪見月

朔旦冬至

十一月朔日冬至をいふは十年の事

一陽佳节

十月無陽の月より冬至より一陽未復

曆の奏

宮線と添

系とゆき日の

履と献唐を姫より

相嘗祭

住吉大神 穴師 鴨 恩智 意富 葛城

新嘗祭

日前 右の神主宦幣と請取行フ祭あり

豊れ明の節會

中辰今年の新米神

の初穂と 天子より 奉り 天子も召れ臣

殿上の淵醉

中丑

長臺の貳五節の舞と御覽と

童女御覽即日清涼殿童女と召れ御覽

鎮魂祭離魂と

空也忌十三日鉢お徳夜と

大師講廿四日報恩講一向宗祖師親鸞上人の忌日十一月廿八日

芝居顔見世朔日

の向大法事あつて廿八日夜

雪垣雪竿

髪置十五日袴着同上

雪六ツのむ雪車雪の上と

栴雪杏綱貫同上

雪垣雪竿

雪吹吹氷氷氷柱銀竹寒苦鳥寒鯨鯨鯨船鯨玉子酒玉子酒湯湯風呂吹大根風呂吹大根

鯨ハエラとみそみそ茶茶鮎鮎蕎蕎風呂吹大根風呂吹大根

水仙スイセン 金盞キンサン 銀臺ギンダイ

冬至トウジ 梅ウメ

太山タイサン 檜ヒノ

葱ネギ ひかり

雪ユキ の下

胡蘿ゴロウ 葡萄ブドウ 引

薑ショウ 引

石イシ 荖ソウ

魚イサ

凍コウ

法ホウ めあに

ろくめ

豚ブタ

戰ケン

鷹トウ かしこを 鷹トウ 狩カウ 鷹トウ 狩カウ 鷹トウ 狩カウ

才サイ 鷹トウ 隼スズメ 才サイ 鷹トウ 隼スズメ 才サイ 鷹トウ 隼スズメ 才サイ 鷹トウ 隼スズメ

退羽打タイウウチ 飛トビ をする時

名ナ さ ひ それを鷹と

ぬすまをヌスマヲ 徳トク を鷹にわめて 名ナ の法ホウ と鷹トウ を云ク 偷トウ 立リツ 書ショ ナリ ちかチカ 系ケイ 乃ノ

振フ 本ホン の振フ と片カタ をつらつらとつらつらと

羽ウ のしは鷹トウ 鷹トウ の尾ビ の

鷹トウ 妹イモ 狩カウ 女メ 鷹トウ と

屋形尾ヤカタビ 鷹トウ の尾ビ の

夏ナツ 左毛サマ 鷹トウ の敷シキ と

ぬくか鷹トウ 鷹トウ を鷹トウ と云ク

秋アキ は鷹トウ の鷹トウ を鷹トウ と云ク その鷹トウ の鷹トウ を鷹トウ と云ク 終シュウ 日ニチ 鷹トウ の鷹トウ と云ク

鳥トリ 柴シ 鷹トウ の鷹トウ と云ク

枝エダ は鷹トウ の鷹トウ を鷹トウ と云ク

鷹トウ 仁ニ 德トク 天皇テンノウ の御ミコト 宇ウ 百ヒャク 濟セイ 国クニ の時トキ

始ハジメ て雉チ と鷹トウ とを鷹トウ と云ク

里サト 神カミ 樂ラク 禁キン 中チュウ の外ソト 神カミ 樂ラク の

燎ヒ たく鷹トウ の鷹トウ と云ク

神カミ 樂ラク 哥カ 鷹トウ の鷹トウ と云ク

加し神風小 早哥

法の子に 書 是も本居るに
五月の物より 物あはるり

小前張 こさへはり 五月廿二日

御火焼 おほたき 十月十日

新玉津島御火焼 十月十二日

三島酉の市 十月中旬
伊豆

日吉臨時中酉

採物哥 とりものうた 十月廿二日

大前張 おほさへはり 十月廿二日

星 ほし 十月廿二日

御火焼 おほたき 十月十日

宇賀祭 うがまつり 十月廿二日

賀茂臨時祭 かまつり 十月廿二日

東三條御神樂 下卯

大原野祭 おほはらのまつり 十月廿二日

山科祭 上巳

春日祭 上申

當麻祭 中卯

松本祭 中卯

中山祭 上卯

梅宮祭 上卯

園韓神樂 中丑

當宗祭 上卯

大呂律 小寒節

吉田祭 中申

抄冬 師走

日吉祭 同上

十二月 大呂律

小寒節 大寒中 殷正 季冬

臘月 除月 極月

右十八ヶ所多礼敷ありるに依て季冬と
多礼敷くの時をいへり

弟月 残冬 三冬月 梅初月 春待月

乙子 元朔日 夕子の

川浸餅 朔日 臘八日

温糟粥 臘八日の

事始 関東八日 上方八十三日

御髪上 下午日 天子の衣を脱ぎしるの

着駄の政

天智天皇御國忌 三日

佛名 十九日ヨリ 廿日ヨリ

加法多縁 天子より仏名の

師走 大寒の日 禁中四方の門に

はくくた所

土牛童子の像と立ル

陰陽師とんと立ル也

櫃梨乃勧盃 津のふほのゆめを 寂勝寺灌頂 十五日

大徳寺開山忌 廿日

寒垢離

寒念佛

寒曝

餅搗

箕和田鯉

餅花

黄鯉

鵲巢ふ

早梅

早咲梅

庭鳥つゝ

探梅

早咲椿

寒造酒

臘梅

室咲梅

孟宗竹

早椿

室咲椿

寒竹子

年忘

歳暮市

年取物買

煤拂

煤掃

古札納

星佛賣

年木樵

節季候

寶船賣

正月の飾物も賣買とせられ冬

曆孔末

弓矢羽子板賣買

節分

除夜 上同

吉田の大枝 節分

内侍所の御神樂

節分之夜

厄ちご

豆打

格指

鰯頭指

厄ちご

大原雜候寐

昔々の夜と云ふとねき男女

追儼 鬼中の

衣配

小晦日

大晦日の夜先程乃

七月おまつりす

岡見

大晦日の夜と云ふとねき男女

齋宮比繪馬

大晦日

門松といとあむ

和布刈之神事

長門國をとり大明神

毎年大晦日の夜寅の

海に四方へはれ屏風と立亭とて海底平々たり神主たはまらあり

奉れはちちち海の面汐みちち

注

四

池上千部 長栄山本門寺 毎年三月十九日ヨリ 廿八日マテ

九品佛千部 武州世田谷領奥村 九品山淨真寺 毎年四月 三日ヨリ十日マテ

海苔日待 毎年三月の内二日多川浦へ海苔をかきしりくようひる日 かりの山時不川中日のりともよるをきと海苔日待とも云る

○天象 月日星天のうらりと二句去 二句はくく一句も捨

天 大圓天々 碧落同 虚空同 半天 月異名月の部

日旭 金鳥陽鳥 晨光斜陽 星北斗 流星南斗 施頭星珠璣

七曜 二十八宿 牽牛織女 各星之分也 日蝕 月蝕 天川

銀河 銀浪七夕の時水辺にあり秋又名野の時水辺に成雜七夕 河内国に天川と云名所あり 銀河七夕の面

と兼ふ外の天象 二句去

○聳物 品うらりとてまに二句去二句くく 一句あつても捨

雲 霞 虹 運氣 蜃氣樓 電 稻妻夜分

遊糸系 月の暈 富士の烟 淺間の煙

松竹柳草木雨等の烟 霧ハ聳物降物両用也

推 日七

○降物ふるりつとまに二句去二句
雨アメ 雪ユキ 霜シホ 時雨シゲレ 吹雪フクキ 露ツユ 霰シラカ 雹ヒョウ 霽ハレ

白雨シラタリ 雪ユキ 雪ユキ 雪ユキ

○神祇三句去三句

伊勢太神宮日本六十余州 宮ミヤ 社壇シヤダン 遷宮ヒンミヤ 三寸ミチ
長官チヤウカン 社頭シヤトウ 社シヤ 祭礼サイレイ 洗米シヤマイ 御師ミシ 拜殿ハイデン
祝言イハコト 祠ヒラ 散米サンマイ 神主カミヌシ 瑞垣ミツカキ 斗帳トチヤウ 御供ミツク

榊サカキ 祢宜ネギ 玉垣タマカキ 神託カミタカシ 初穂ハツホ 社人シヤヒト 榎エノ

千木チキ 湯立ユダテ 神輿カミコ 乙女ヲメ 鯉木カサキ 幣ハテ 氏神ウヂカミ

神馬カミウマ 神子カミコ 鳥居トリイ 鎮守チジンシウ 贅セ 繪馬エウマ 欄ラン

巫ウ 尊ミコト 祖ソノ 天子テンシ 小忌衣コシヨモ 神樂カクラ 命ミコト 祖ソノ 臣ウヂ 下シタ

木綿袴キヌタマキ 御手洗水ミテアラシ 膳シヤウ 神供カミツケ 七五三シチゴサン 鵜羽膏ウハフキ

齊院サイエン 賀茂カモ 齊サイ 潔キヨク 斎サイ 忌竹指イミタケササ 矢大臣ヤタヒ

神宿カミヤド 川カハ 榎エノ 御ミ 榎エノ 菅スガ 簀スサ 形カタ 代トコロ 叩首ウツクサウ 沐シユ 巾ツケ 手テ 巾ツケ 手テ

神樂

大前張 小前張 星記 阿知女 採物歌 里神樂

起請

誓紙 神文

丹後

有

かろく

神々 鋪也

伊勢講

太々講 參宮

非神祇

惠方

年徳

男山

放生川

龍宮

橋姫

山姫

精進

佐保姫

龍田姫

諸佛の名

諸菩薩の名

佛祖の名

諸佛經の名

釋教

三句去三句はく 一句うても捨

諸僧法衣

諸の官名

諸宗佛具

羅漢の名

諸山号院号

寺

門跡

僧正

念佛

舍利

精舎

堂

上人

題目

數珠

伽藍

和尚

塔

和讃

拂子

庫裏

長老

談義

經

木魚

方丈

僧都

法問

五銚

衣

眠蔵

能化

論義

獨銚

客殿

笛

所化

灌頂

帽子

輪蔵

出家

鉦

観念

燕尾

行堂

雜

コトシ

子をおぼへ 仇くくへ 下^{シタ}紐^{ヒモ}解^{トク} 身くくをみ

寐^ネ乱^{ラン}髪^{カミ} 垣^{カキ}間^マ見^ミ おのゝ女の住るる

近^{チカ}かきり

錦^{ニギギ}木^キ 二尺をうりの木とて小かき

細^{ホソ}布^フ さしの細布とて

云字こむみあひくまき

緋^ヒ帯^{オビ} 女のほしき帯なり

後^{コノ}朝^{アサ} あけの朝なり

空^{ソラ}炷^{タキ}

空^{ソラ}炷^{タキ} あきそら

衣^イ

おの別れ

虫^{ムシ}の印^{イロ}

いりの虫をとりて女の印はぬれ

非^ヒ憲^{ケン}詞^ジ

鬢^{カミ} 所^{ココ}縁^ヰ 奥^{オク}様^{サマ} 櫛^シ 三^{サン}縁^ヰ 鏡^{カガミ} 枕^{マクら} じ^シ女^メ

中^{ナカ}居^イ 歎^{ナケキ} 宿^{スク}執^シ 夢^{ユメ} 帯^{オビ} 半^{ハン}婢^{ヒメ} 乳^ウ母^{ハハ} 泪^{ナミダ}

干^{カン}詐^ソ 偽^{イツワリ} 後^{コノ}家^{イヘ} 下^{シタ}女^メ 御^{オノ}高^{タカ} 天^{アマ}女^メ

早^{ササ}乙^ヒ女^メ 瞽^ゴ女^メ 市^{イチ}女^メ 賤^{シズメ}女^メ 学^{ガク}の文^{フミ} 旅^{リョ}の文^{フミ}

佛^{ブツ}日月星と祈^{イノ}る句^{コト} 禪^{ゼン}

右^{ミダリ}のかゑに非^ヒと云^{イハ}ふと云^{イハ}ふよりゑに候^{マシ}へ

○無^ム常^{ジョウ}之^ノ詞^ジ 并^{ナド}哀^{アイ}傷^キ 二句を一句とても拾^シ 釈^{シヤク}は三句也

鳥辺野 仇一野 劔の山 三途川 魂結ひ
 灰人 灰寄 葬頭河原 白骨 髑髏 冥途
 寵 極樂 中陰 忌中 周忌 幽霊 人魂
 追善 追悼

○述懐之詞
 寡 白髮 三輪組 苦 継子 苔衣 乞食
 眉の霜 佗 病人 苦 継子 苔衣 乞食
 貧 浪人

世と捨

非述懐詞

愚 賤 山賤 座頭 瞽女 柴戸 尉 翁
 草庵 釣翁 賣炭翁
 祖父 父 兄 姉 我 息子 娘 婿 祖母
 母 弟 妹 妻 子 孫 女房 伯父 甥

○人倫之詞
二句去二句捨く
 一句はとも捨く

舅 夫 親 彦 獨 從弟 伯母 姪 姑
 賀 聖賢の名 實名 俗名 僧法師の名
 傾城白拍子野郎の名 此外準一とあるべし

非人倫之詞

帝 皇女 本院 新院 仙洞 太子 宮
 親王 門跡 大君 仙人 人間 一門 凡夫
 眷屬 二人 三人 大勢 雜兵 衆生 典藥

外科 本道 老若 鍼醫 入道 百性 旦那
 敵 かゝり 俗 不仁 窮 思同志 代官
 目代 民 目付 苗主 居 奉行 身 某 松
 地頭 門主 橋守 門守 花守 山姫 寒山
 拾得 僧坊の宦名 釈祖師の名 俗宦名
 苗字 守の字 師 經師 佛師 繪師 鑄物師 是等也
 者 功者 使者 医者 佛者 是等也
 文者 筆者 儒者 師者 是等也

卯教多あり
りの田あり

家 亭 床 梁

屋 樓 礎 隣

宿 庇 堀 天井

菴 椽 鴨居 座

軒 小屋 鋪

書院 閨

廊下 棟

玄関 夢

部屋 闕

察 壁 窓 圍 闔

○居所之詞 之句を三句はく
一句を七句はく

余ハ准一あり

村

里

筑山

坪の内

泉水

路次

疊戸

外面

井戸

井筒

脊戸

簾

障子

鉤簾

翠簾

暖簾

上蔵

欄干

町

障子

鉤簾

庭

卯教多あり

余ハ准一あり

柱

古書ハ非居所ととも居あり

杖柱 檜柱 ちと居あり

非居所詞

内裡 皇居 御所 市場 軍場 鞠場 等也
非居所 千 御所 非居所 市場 軍場 鞠場 等也

○山類之詞 二句を三句に併せしむ

山 峯 嶽 岨 岫 谷 峠 高根 坂
 尾上 九折 山姥 山姫 瀧 山 関
葛城 久米の橋 尾上 九折 山姥 山姫 瀧 山 関 白川

山類用 本山に於ては

岡 嶋 岨 泊瀬 水邊 関

非山類詞

吉野 島國 瀧川 山人 淡路嶋 三島
 越路 仙人 山 瀧津川 氷室 山
 山鳥 山桃 龍田川 山梨 蓬が松

余ハ唯一と云ふべし

○衣服之詞 二句を三句に併せしむ

裳モスリ 小袖コソデ 衣裳イセウ 繻絆ジュバン 白無垢シロムク 被カキ 袷アサギ 袂タテ 帷子カダビラ 紙子カミコ 衽フクヒ 襟エリ 褌ツツ 裾スリ 布子ヌデ
 單物ヒトヘモノ 袖口ソデグチ 浴衣ユカタ 衣紋イモン 産着ウマキ 羽織ハオリ 褌カウキ

此介不新の物皆衣類

袷龍コソリヤウ 直垂ヒタシ 狩衣カリキヌ 素襖スオウ 襦袢ムツキ 奴袴ヌハカマ 袍ホチ
 大口袴オホカマ 褌ハカマ 小忌衣コヨモイ 白弦シラハリ 緋袴ヒハカマ 縊袴ヅリハカマ
 非衣類詞

綴ツヅ 宿直衣トシイモ 祝イハヒ 淨衣ニヤウエ 袈裟カサ 衲衣ナゲ 蓑ササ 帶オビ
 直衣ナシシ 上下カミシモ 肩衣カタクヌ 絆切ハンキキ 水旱スイカン 葛袴クワハカマ 水衣ミヅコロモ
 十徳ジツトク 篠掛スノカケ 直綴ナシシ 居士衣コジイ 立付タテツケ 襟卷エリマキ
 掲布カチ 帽子ホウシ 校初カクサシ 野袴ノハカマ 紙羽カミハ 脚絆ケツバン 股引ムネヒキ
 頭巾ウケキン 足袋タビ 三尺手拭サンシクテヌケヒ 法被ハッヒ 褌ツツ 褌ツツ 藤衣フジイ
 道服ミチウケ 羽衣ハネウケ 裙袴スリハカマ 禪ゼン 褌ツツ 縷帶ルオビ 藤衣フジイ
 禩キヤウカテラ 素鞆ソロ 喪服モウフク 右官服祭服僧衣喪服礼服等系

生る利せらる物皆非衣類

○水邊之詞

二句を三句はく
一句を二句はく

蛇籠	筏	津	淀	海
水屑	樋	浪	渚	浦
濱菘	窺	泡	沖	濱
海草	流	潮	磯	川
須磨	溝	汐	汀	江
明石	井戸	沼	瀬	池
松島	海士	杜若	洲	澤
	魚火	瀧	浮木	堤
		島	淵	流木
		橋	崎	湊

菖蒲

貝類

釣具

魚の名

水鳥の名

漁の名

船の道具

辛崎の一松

蓮

萍

藻

氷水邊詞

天の浮橋	室の八島	鵲の橋	意の海
夢の浮橋	難波寺	布曝	蓮の上
白川の関	泪の淵	志賀の松	碓氷
月の出汐	軒の玉水	あまの川	天水
		二瀬川	岩解

氷柱 宮屋 干魚 干貝 苗代 山 鹽

○夜分之詞

月 星 曙 霽 暗 篝 蚊 鼠 寐言

寐 枕 軒 炬 埒 晚 銀河 明星 日待

七夕 横雲 稻妻 龍灯 鶉川 行燈 初雞

胡狩 寐鳥 燈籠 挑灯 燭灯 紙燭 燭臺

蠟燭 短檠 手燭 假寐 居眠 夜看 燈明

送火 衣々 深更 化物 幽霊 夜登 辻君

夜多嫁 蚊帳 草の枕 衛土の焼火

星をこころふ 出入 住吉の市 星月夜

の時非 追儺 除夜

非夜分詞

鐘 泊 電 礎 虫の聲 三日月出 芦火

今日の月 朝の月 明をまね 常燈 昼の月

暮の月 夢現 夢幻 夕月夜 郁明入 残月

余ハソレニ准クモクニ

○食類之詞

食物ト 飲物ト 品替りて ニ句去ニ句去ク
一句去ニ句去ク

○旅躰之詞 各ククニ句去ニ句去ク
一句去ニ句去ク

門出 餞別 乘掛 輕尻 蒲團張 馱賃

水賃 跡附 水陳 旅簞屋 出女 馱荷

泊好 宿取 川留

○生類之詞

虫ト 虫ト 鳥ト 鳥ト 獸ト 獸ト 同生類之句去
二句去ニ句去ク

虫ト 鳥ト 獸ト 鳥ト 獸ト 何れも二句去
何れも二句去

○植物之詞

木ト 木ト 草ト 草ト 同句去ニ句去ク
一句去ニ句去ク

木ト 草ト 竹ト 木ト 何れも二句去
何れも二句去

不鳥不低植物

木つものあつても竹つもの
二句を二句ハははるる

藤 萩 槿 茨 荊 葛 葡萄 薔 薔 牡丹

枸杞 山吹 卯花 五加木

○書躰之詞 二句を二句はるる
一句を二句はるる

文字の囀 書籍 文臺 繪 草紙 筆 硯

墨 頓寫 夏書 手習 朱引 席書 狀

手紙 文 玉章

炷 煤 灯 爐 巨燧 火鉢 炭 竈等也

○火躰之詞 二句を二句はるる

余ハ准ハあふん

○風躰之詞 二句を二句はるる

風鈴 扇 團 吹 芦の声 抄子く木

余ハ准ハあふん

○病躰之詞 二句を二句はるる

餘レ小レ廻ル來ル打ツ成ル識ル
 當レ込ル間ヲ○浦ヲ猶シ次ヲ
 頓ヲ
 事ヲ振ル遺ル野ヲ双ヲ子ヲ
 樣ヲ有ル吹ル揚ル上ル虫ヲ音ヲ
 先サ明ク深ク山ヲ登ル無ク中ヲ
 却サ淺ク止ル殘ク鳴ク
 指サ跡ヲ心ヲ待ル吳ヲ上ル無ク
 下サ逢ル比ヲ聲ヲ又ク雲ヲ憂ク波ヲ
 小サ合ル木ヲ迄ル草ヲ識ル並ク
 更サ根ヲ

掛ル忘ル置ル止ル外ヲ今ヲ
 袖ヲ方ヲ分ル追ル留ル程ヲ幾ク
 外ヲ兼ル渡ル多ク通ル邊ヲ出ル
 其ヲ飯ヲ割ル音ヲ外ヲ邊ヲ入ル
 初ヲ日ヲ侘ク小ヲ取ル經ル
 添ル吉ク力ヲ思ル解ル下ヲ時ヲ花ヲ
 遣ル夜ヲ哉ク川ヲ落ル鳥ヲ時ヲ花ヲ
 着ル夕ヲ立ル風ヲ押ル路ヲ遠ク晴ク
 解ル為ル風ヲ折ル近ク問ル果ク
 就ル絶ル替ル通ル我ヲ共ク張ル

春の月一 表の二月一 表の有明一 表季一

以上四也折去夏冬同断

作一化の季より一表秋をよりけり

心の月 胸ハナの月 月次ツキツギの月 真如ニニヨクの月 月草

寺号ジカウ 山号 付字ツキモ 曇クモリの氣キとて冬を感う結ムスの面オモの月ツキ 秋アキの表ウラより折マりけり

たとへば休生教十月氣物の月 星月夜ホシツキヨ 氣キを結ムスて非月 星の光とて之

月の雪霜氷秋也 月ツキの初ハジメとて下シタする也 月の氷秋也

月ツキの初ハジメにして冬 月ツキの初ハジメにして冬 月ツキの初ハジメにして冬 月ツキの初ハジメにして冬

星の光おほく秋也 跡アトの月 夜分ヨルノハ但タるより出デて秋アキの跡アト

非夜分 月明果ツキアカリ ぬちありし ぬちあり

るぬ入 肚ハラ出デる 此類皆 月を祈 非意 月待ツキマテ部

月讀神 月讀社ツキヨミヤ 月ツキにありし 夏の夜吐霜ナツノヨルハシ 月ツキに成ナリて 夏ナツの非降ヒノ

月の初ハジメのまゝありしと 表ウラと見ミる

○花之部

花ハナ四也折マ一ツ宛ヘ 花の字 三句去 初花 待花

花靴 カシマ 花鯉 カサネ 糸花 イトハナ 花の白 ハナノシロ 花衣 ハナコロ 作花 サシハナ

紙花 カミハナ 花栄 ハナサキ 花ののぎ ハナノノギ 花の縁 ハナノエ 花乃袖 ハナノスエ

花の袂 ハナノタビ 花真壺 ハナマコ 紋の花 モノハナ 繪の花 エハナ 詞の花 ことばハナ

花の姿 ハナノサマ 染物の花 シモノハナ 織物の花 オリモノハナ 花のし ハナノシ 傍のちふく 又傍のちぢり

げ敷植物に二句の花と云ふは春 ハハハハハハ

花皿 ハナハ 正花也 マサハナ 檜皿の時 ハナハ 非正花 マサハナ 花神樂 ハナカミ 花の香 ハナノカ 花筵 ハナシロ

減らさばばらばらハ植物に二句云 花の臭いハ折去 花神樂 ハナカミ 花の香 ハナノカ 袖の香 折去

花の白 ハナノシロ 袖の白 花の散 ハナノチリ 花の散ハ折去

花の白 ハナノシロ 袖の白 花の散 ハナノチリ 花の散ハ折去

花に付 ハナニツキ 句同送具 クワドウソウグ 花に付 ハナニツキ 句同送具 クワドウソウグ

花に吉野 ハナニヨシノ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ 花に吉野 ハナニヨシノ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ

花に ハナニ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ 花に ハナニ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ

花に ハナニ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ 花に ハナニ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ

花に ハナニ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ 花に ハナニ 付 ツキ 句同送具 クワドウソウグ

まへー馬の園より表の
花の定生 おもしろいのみ交する者

他の季の花

夏の正花 餘花 若葉の花 郭公結句

秋の正花 花火 ちりとり花

冬の正花 飯花 花足袋 餅花

雑の正花 花紅葉 飛花落葉 結糸

余ハ白吟よりうらやまの者へー

非正花分

花のぼり 本名縹帽子也 花田草 同上 ぼりかむ あまきこ惟

花丁子 テマシ 湯の花 花野 なま 花壇 同上 花 カサ の花

火花 灯乃花 トモギ 丁まひく 糸のまなが 端之餅

浪のむ 雪乃花 深色のちみ色 藍の 色紙 鼻紙

まあか 馬の鼻 花子の親 キヨク 花町の親王

花園院 花頂山 花川戸 如此氏苗字へ名官名

花王ハナノミ牡丹ボウダン

花の富貴フカキ同上

花の隠逸カクレイ菊キク

花の兄ケイ梅ウメ

花の君子クニシ蓮レン

花の宰相サイキョウ芍薬ショヤク

六の花ムロ雪ユキ

鴨カモ連レン花ハナ海棠カイトウ

花ハナ夕タチ貝ガイ

三の花ミ霜シロ

末摘花スエトクハナ紅ベニ梅ウメ

花ハナのノ真マコト菰コモ

四シのノ花ハナ

紫陽草シヤウソウ

花ハナがガくク

紅ベニのノ異イ名ナ紙シ

いろはあなふかき

① 花 いとあなふかき 一 いとあなふかき 一

はねハネのノ花ハナ

いイのノ花ハナのノきキ

いイのノ花ハナのノきキ 一 女メのノ字ジ

いつイツのノ花ハナ

いイのノ花ハナのノきキ 一 出デるル入イるル 一

いイのノ花ハナのノきキ 一 沈シヅのノ面オモ

いイのノ花ハナ

いイのノ花ハナのノきキ 一 出デるル入イるル 一

いイのノ花ハナのノきキ 一 沈シヅのノ面オモ

いイのノ花ハナ

いイのノ花ハナのノきキ 一 出デるル入イるル 一

いイのノ花ハナのノきキ 一 沈シヅのノ面オモ

いイのノ花ハナ

いイのノ花ハナのノきキ 一 出デるル入イるル 一

いイのノ花ハナのノきキ 一 沈シヅのノ面オモ

いイのノ花ハナ

いイのノ花ハナのノきキ 一 出デるル入イるル 一

花

花

四季

貞富

草や藤おろふ家とてあつての道
此と先へ一に涼このしほ
た種本に秋を塗るうり考おふ家
かどまをや置るのらるる雪の松

三物

貞逸

里林へは娘よ紅糸糸結
御衣をうらなや戸の突つて
月の空一巻づつ巻おこ

文佐

のまをうらむ巻巻くうらむ

数句切字のみ

や	や	ぞ	う	よ	め	り	あ	り	あ	り
さ	ぞ	あ	そ	あ	れ	こ	え	あ	ふ	こ
い	さ	い	ざ	い	の	え	そ	も	た	ま
ら	ん	え	ん	せ	ん	せ	ん	い	づ	ま
い	の	づ	い	づ	ま	か	り	あ	る	は
き	り	ま	あ	り	こ	早	の	ぬ	を	ま
										あ

早のぬ をまきわ らるぬあ

下知を^て受け^てある 現在^にある 白^くい^ふ 白^くい^ふ

未来の^にある^{こと} あり^まい^る あり^まい^る

二字切

おる人^がおる^人風^がある^{こと}

二字切

いふ^{こと}は^何の^か星^{の中}

三^つ順^切 三名切^に

女^帯男^の衣^裳う^けつ^ての^尾

大^切

ふ^いふ^{こと}を^留士^の者^らを^眼鏡

と^いふ^{こと}

あ^らわ^する^{こと}の^とう^かに

去^切

名^白く^いふ^{こと}を^張子^を張^つる^人

い^ふ切^字あ^らわ^する^{こと}の^とう^かに^いふ^{こと}を^張子^を張^つる^人

切^字あ^らわ^する^{こと}の^とう^かに

ふ^いふ^{こと}を^張子^を張^つる^人 あり^まい^る あり^まい^る

ある^{こと}の^とう^かに^いふ^{こと}を^張子^を張^つる^人 あり^まい^る あり^まい^る

或の部

首代阿州の言にひうう米沢男中負雨
め死くと本意の成るう全芳雨
まふれ全扇全名り全異全さ全う全る全一全鱗
長橋全八全舟全一全船全の全落全葉全や全全
と合全の全日全陰全く全也全る全早全も全さ全か全其山
由全る全に全濡全ても全此全の全異全さ全か全藤里
去全く全く全ハ全雷全ま全り全降全止全よ全も全も全其木

やの部

上州全の言にひや全極全れ全こ全や全一全掌全乙全牛
初全言全や全い全く全海全に全放全す全ま全一全芦遊
人の親全を全と全も全と全や全む全軍全湖遊
一全家全族全の全ら全れ全や全れ全と全と全桐直
ま全る全ま全り全に全曲全ぬ全津全一全孤遊
陽全を全や全練全く全烟全る全陽全八全珊木
糸全井全や全秋全の全ま全れ全の全文全所全船ト

初水と通て四るはくう石州な全東山
落る葉のま全い全く全も全る全時全有全や全芦全雲全一全ハ全二全八全も全ま全る全お全す全く全竹全遊
湯全作全葉全度全り全ハ全む全の全お全り全陽全也全万国
友全山全の全流全れ全産全す全く全も全る全葉全が全娛全流全葉全が全葉全や全本全町全筋全の全小全枝全付全の全古全之
子全と全も全ハ全園全不全来全と全も全る全通全う全る全五出
隠全葉全も全は全り全枝全りの全落全葉全也全巴山
真全舟全の全片全帆全懸全れ全を全れ全る全可全邑
あ全の全陰全く全一全寸全も全く全も全柳全風全ま全る全ま全る全は全ま全は全ま全摸全極全や全渡全り全る全文里

隣くも二筋にすち柳うれ 鳥山 古くは廿日ぬやけーの志 新宿下 子勇
 曇日の心くりしぬ様 風光 暮るやまゝと暮と頼流 横壑 松雨
 人のおもひとんそおと踏 掌 名月や屋敷の影もえ 小中 文
 目振ちふ松えき 松童 伴水 長根 文賀
 多奈の肩もかり 松童 松童 馬庭 山
 糸 若井 山
 珠い 若井 山
 鬼百合 西平井 悦山

大名の目より 木山 百猿 倉ガ 芦英
 汐日 木山 蓮舟 倉ガ 千難
 一葉 木山 秋空 倉ガ 文萱
 錦秋 倉ガ 柳
 大文の養具 倉ガ 御遊 倉ガ 花隣
 日向漕舟 倉ガ 泗浪 倉ガ 池鯉鮒
 あり 倉ガ 延山 倉ガ 盛賀
 全

八十五

蕙好上州七尾 釣浦 傘の雲より枝の青より透竹
 ニツ全八幡 更函 心よりわらうる花や秋枝を魯州
 一輝ハ菊ふわり全 九阜 名月や花枝のゆめはひくろ全 芦葉
 吟の梅風ふきの何そ藤全前 杉雪 昔昔や秋夜に流氷の鏡より芳州
 秋ハ花露とけハ枝の秋扇風 蒲の江辺に清く上灘の青全 永州
 風きて目よりく全芝 松露 夕影やわらうる花のあそび全 齊州
 落葉はく落葉はく全 津山全 若洲 陪ながら世をおるや秋の面全 東州
 淋全 雲を流さるる秋葉を全 專秀 松雪の戸板の闇の星のまろ全 羊州

柳全 田葉 菊畑や秋穂のまこと全 客應
 森猫の首も蝶の成り全 盛山 暮秋や花とまよる花の風全 文子
 冬くに風を喚ぶる柳全 時交 葉のむや喚びつて冬を全 芦魚
 初雪を全 胡鏡 涼く全 斗醉 恐行田
 春の菊の影も全 亭松 煙舟うら秋の顔白や全 芦鴨 全四方寺
 わらうる花の度る柳全 好時 稲妻の雲ひ所や吟の松全 山童 永竹
 木の葉は全 山螢 藪入や思ふら花水と流る全 山童 竹本
 枝川の曲と飛全 山色 白を流の浮世ありや全 新石 上慈久ルリ

中々大橋のふりかへり改修 <small>八幡山</small> 呂竹	まじふをけぬる石 <small>江州</small> 近山
道のかへり内中 <small>全</small> 好竹	遊やそれ笑のあつ細小浜 <small>越後大夕</small> 里風
将うとて道の繁に <small>全</small> 陸原月	夕多やまをさるる冷 <small>石州ツノ</small> 合素兄
仍事のあつた死 <small>新宿</small> 月	初林や世に接 <small>全</small> らぬ落橋 芦洲
白濁に事かたつる流う <small>全喜水改</small> 山	まじや日あくの旅かま <small>全</small> 羨鳥
あふれれり水之地 <small>全</small> 花後柳 蘭思	幾くとも水のうらや <small>上羽高井キ</small> 其國
四六をうらに <small>全</small> 柳糸	お傘の耐ぬめりや <small>秩父野止</small> 主原
吸付ふあつと好む <small>上手邑</small> 泉志	夜宿のたぬる月や <small>上郷</small> 月峰

迷ふれぬを吐く <small>四前</small> 管竹	月や日はけり <small>南無より</small> 白羽
所やめあつたお茶の <small>長根</small> 全	入おとのうらやを <small>式見改</small> 三聲
入おあつと付 <small>黒熊</small> 霍昌	白ひるは雲ふふ <small>串崎氏</small> 虎山
時くふ船の動く <small>宇貫</small> 川龍	新月や古ひの付 <small>金谷洞</small> 友里
湯や隣 <small>全</small> の舟 <small>赤堀村</small> 可水	床をゆれと秋の力 <small>活月舎</small> 万壺
色がごとく <small>山野印地</small> 山笑	初雪や茶葉 <small>友之</small>
夢のふり <small>日野印地</small> 元	夢の揺や月 <small>友之</small> 素石

今為少の地化しつる野上	泰山	三勝や零のふりつり月其潮
むとんと南の日の極る	天田	名月や何處とく死小琴吏山
淵淵るかろんあふり下	吉井	初雪や下枝をふりりつり千草
一葉は初葉振り	全	岸松
秋捨て懐のつる葉葉うま	全	松川
吹夜に人のくろく葉う形	全	保水
借とがまをてしる葉ぬうま	全	初交
多の堀龍の川橋とく葉をる	全	笠雨
		且掃や雪よりうへの尾
		紅古方
		玉

そと海流掃せとく葉をる	西平井	周盈	七夕の糸に初雪掃せり	里鶴
水さきくあに老くし柳	馬庭	里川	六くれ吹雪のあや杜松	輪路
岩井		淵水	おろしあや籠ても	粟免浦
枝川の音もあふり	塩川	笠平	初秋の暁やいつれの	初鼓
松木のうりて	全	笠川	百姓の余情は	まや初
下大塚		梅里	葉塗あも	篠は
フ子岡		且山	名迹は	雪の
全		山慰	川筋や	園を
			雪の	友
			子	青
			鳩	

澄の香ハ色紙全とをまらぬ全用和
 墨のうのう全人むの全物全東川
 津極境武州熊谷扇全かして涼全う全由全芦碩
 わく全内斗全火全燧全ハ全ま全ら全る全友至
 井を全定全て全己全世全唐全ま全ま全存全文全至
 改先全の全ほ全く全あ全ら全る全ふ全ま全が全貞宿赤平

白のりや移の全と全手全然全懺全竿全交全兔
 物魚全の全丸全付全ま全や全入全月全白全風全車
 振袖全の全物全も全物全少全や全土全用全千全其全月
 初全の全ろ全を全定全ま全ら全る全も全は全く全白全魂全其全桃
 今全は全風全の全雲全や全ま全ら全る全一全井全左全木
 暮全や全人全の全命全も全あ全の全内全杜全平
 手に全持全ま全せ全の全灯全や全々全の全菊全米全甫
 隠全道全あ全ら全る全あ全ら全る全ま全ま全ら全る全あ全ら全る全貞雨
これ文持やうのう

け全が全り全一全色全紙全と全を全ま全ら全ぬ全平湖全
 夕全景全と全や全ま全ら全る全ま全ま全ら全る全ま全ま全ら全る全藤巴全
 車全ま全ら全る全の全流全ハ全低全一全之全
 ひ全ろ全く全く全ま全ら全る全白全ま全ま全ら全る全竹志全
 松全影全も全ち全ろ全く全ま全ら全る全聲全宇貫全艷山全
 秋全深全一全氣全の全色全も全ち全ろ全く全ま全ら全る全吉井全笠雨全
 引全替全の全足全既全活全一全和全分全は全浦全小幡全重友全
 お全ら全る全秋全の全枕全も全林全一全水全車全堀町全竹雨全

夕全景全と全や全ま全ら全る全ま全ま全ら全る全ま全ま全ら全る全伊弉諾全
 車全ま全ら全る全の全流全ハ全低全一全之全よ全
 ひ全ろ全く全く全ま全ら全る全白全ま全ま全ら全る全様全千全以全布全子全ほ全ら全は全後全の全月全吉井全松庭全
 松全影全も全ち全ろ全く全ま全ら全る全聲全宇貫全艷山全玉全味全香全の全色全も全ち全ろ全く全ま全ら全る全吉井全橘栗全
 秋全深全一全氣全の全色全も全ち全ろ全く全ま全ら全る全吉井全笠雨全ト
 引全替全の全足全既全活全一全和全分全は全浦全小幡全重友全蒼全々全と全や全ま全ら全る全ま全ま全ら全る全ま全ま全ら全る全高サキ全好栄全
 お全ら全る全秋全の全枕全も全林全一全水全車全堀町全竹雨全あ全ら全る全け全り全

かくおれお石白を 桔槔 安戸 東里
初毎の形ひも涼しき水が 雞歌 池計堂
そよよあはれあり 萩の後友之 長ハラ
風よりあやうき 一編の表 芦魚

カウ

新田ふえと付くうかんを 千間 湖雲
ゆきの帆は渡中より 檜 吉井 復兒
ふりぬ

積をよし雪の日に果るうら 深沢 松岸
梅の風園に恨みありき 三宅 舎牛
きつて扇の風もたう 三宅 芦夕

カウ

尻をよみよあやうき 桃井氏 玄徳菴
ゆきの舟もよ 千間 舟志
一所の雪はあやうき 阿州 嵐晴
雪すえてあやうき 阿州 嵐晴

とろとろとて 全間 山 稔
たは 吉井 和周
涼しき 吉井 松月
いさ
ま 八幡山 秀竹
おね字
菊と向ん 小幡 秋空
おれの 宮崎 幸成

カウ

星合 高カキ 湖青
星合 米沢 習谷
吹て 吉井 松石
ゆき
ゆき 小幡 素牛

川

高^{トサキ}の柳 芳柳

有隣

原翠

呼雪

里鶴

笠考

高^{トサキ}河月

と

東宇

山

山

山

春且

繁柳

よ

山貴

而醒

壽保

切字

負雨

魚

過改

豊東

當屋

牛羅

半羅

早如

山

竹倭

下如

伐柯

九十一

紙跡のよみかき記初しつらぬ 行 文 芳舟人送れ様不風の神 其 朝

多物ハ約らむこ中々多文 三 紀 擬

鴉の結と花のたつるまはる 馬 望 水

やとと多文 熊 谷 嗟 夕

只多しぬ本後のゆき 全 山 至

表は ノ 手 間 負 宿

今ふむし 風 言ハ
表は 多 事 早 ハ 二 事 初 也

芳舟人送れ様不風の神 其 朝

万物のたつる中ハ

この際の方 多 事 多 事 多 事

蓮葉や 貞橘

人のつらさぬ

柿の核

云々 時 多 事 多 事 多 事

多 多 事 多 事 多 事

秋和の 多 事 多 事

跡 多 事 多 事 多 事

多 多 事 多 事

夏 多 事 多 事

夢中庵
笠翁

已 多 事 多 事 多 事

多 多 事 多 事 多 事

つ 多 事 多 事 多 事

全

橘の子れ

多 多 事 多 事 多 事

嘆 多 事 多 事

多 多 事 多 事

九十三

四季

佐野
枕流齋

秋の灯乃人さきゆく一掃月杜川
一掃八月ももあめは漢あめ
後経磨つらぬ奥助や生来西丸
そよりとも松の海法師の歌

全

夏夜や家の梅も夕晴那山吳周
徳史の徳もあはれの松の

全

こゝろせして是も徳をてのま一徳
推の本や徳牙に返れては若
風のこゝ夏腐の白小秋乃音
太君の火よくそつら火焼く

全

石枕は徳物とほくを柳うゑ貞笠
一さげ夏の松は夕松の

上州岩井

全

冬もや暁のまゆ月を青
并にさゆおれとく雪輝
子心抱て人の静やんいさみ
似てさめ瓜にこそと後の月
庭舎お役老もせりう春草か

全

雪のそよ白く別建ては雪の
傘借りか秋は雪焼く雪の
まゆのまゆくさ雪をとも山麓石之
松を空に回春の静をい初経
稲妻の徳をい松の本は雪の
秋の雪を焼く雪の雪をい

全

口明で恰成る汐子一の船芦邑
惟子の居るはやあはれ
ま白るむく物う著椒
張きで陳子もをーを後

全

上州平岡

伊勢あゝ七十の飾赤貞川
崎崎やあややくぬれ古社
秋物と若くもあゝはあ女前

重く入人もあゝを元を干写
惟子とあや懐のあまゝ
目もそに秋くをー後の月
事の著自由にをを合気

全

上州平岡

お山の著きたはし初橋貞陸
あゝこれと陳あゝすはのあ
一はく文の秋やあゝうし

道かの憐れき方やあお抱

全

まゝあや抱くもやハ船の者貞隣
園のあゝは消えそは福
秋の著あゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

全

上州大塚

川若へ橋まゝりーあゝの山周賀

お返りあゝの著あゝあゝあゝ

全

お橋や下州のあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
こーかゝの平著あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

全

上州平岡

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

善いそと振袖もゆり由種頃
穂は年よのころと人さくもむきけ
ゆきとそ舟とたふぬ川一航

全

松のねらの日振やむきく芦波
淋しくは流れてゆやがんとそ
秋虫のまよふ人うねる後の月
あそびの頃風を清めけり舟は

上州下明

白くは霞きく一蓮の心
淋しくは秋色をながくそよの
初雪がふりさるる山あけりき

全

あふれぬ水あふるのふりは流る
伊勢とそ六枚のゆりたきき
初雪のゆきもあふるそよの
唐とあふる水あふるそよの

赤八幡
邑山

全

振小群う女飛鳥山古相
白ふや葉舟のかりた橋柱
夕日秋松の振や暮るる夕
弘引は流るるまや村中

南窓亭

全

あふれぬ水あふるのふりは流る
あふれぬ水あふるのふりは流る
あふれぬ水あふるのふりは流る

阿州

全

あふれぬ水あふるのふりは流る
あふれぬ水あふるのふりは流る
あふれぬ水あふるのふりは流る

南見庵

全

あふれぬ水あふるのふりは流る
あふれぬ水あふるのふりは流る
あふれぬ水あふるのふりは流る

九十二

虫の音に木葉落る月夜介
雪の日や梅の影も手一合

三物

拾花甫

まきくてもお祭と海と紅紫赤貞里
入日ハ山月ハ海をこる
あ君此所肩とまき憶碎

全

秋の夜を星の別れさ
初雪や雪のよこ一はまき

三物

一祖堂

いつく入るもささきや江村戸
おかにはらる朝のひす赤
秋と雪と憶寄らるる思係く

全

故壙はまきくもささき夜は枯枝波光
茶酒ハ癖も成て涼し
水窓の月を志子の涙を帯

全

上州八幡山

おはれは金屋にうらやま麦畑桐船
おはれは金屋にうらやま麦畑桐船
おはれは金屋にうらやま麦畑桐船

全

呵られは梅とささき後月貞竹
秋酒の露の秋と涼し
一瓶の酒は縁に集れりやとて

全

上州八幡山

徳家のいづれにや落葉松花
垣のりやうたがらむ秋
翠の面に香の思ふぬをのりて

全

九十六

うやうやうとあそぶを桃の園全 芦雁
秋意後乳母うかひ中を
夢のあやうめあしと夢を

全

夢をに曲うれ緒の初あり全 芦笙
体人て夢の初ふ地冷
月と花の顔向燈映しも夢

全

山家の序くれ初るや秋の月全 弘山
秋つけるにたまふ秋の虫
る夢屋の秋後夜とあそぶ

全

二人来て夢うらぬ秋の夢夢 桐栄
燈の影にまやく夢うらぬ
てふくと夢うらぬの夢夢

全

おむや夢をてもうねぬ文系益平 松閣

窓に立居ふ夏の湯揚
沖の船をたふせに揺るて

舟と漕舟あそぶの女が足 芦魚

撥算の光とくくく
名月の秋を夢うらぬ

歌僊

風志

又後れひるかきる夢田中
夢をてあそぶ牛の角に初蝶貞山
帘いと行人に無わうく常仙

哥仙

二つ三つをと熱味の種川友里
秋冬を夢うらぬの夢 芦管
頼れぬも夢うらぬの夢 芦邑

あふりにけり八島其紙の帯 有佐	珍瑤川、村の子らあ 貞国
浄瑠璃も浜濱ふりき世の月 貞屋	風呂俵に吹きこ月もわらん 芦管
帯の約来も物敷の型 執筆	笑へと中程ふり下これ 友里
あかて、うしろの袋帯をま 貞山	振向をたせなへ結を、 貞国
世もなきは苗の一人 風志	女の志しぬ非の指引 芦邑
ありあてとて現にまきば 有佐	手拭とて窓を並て十文の 友里
かきさら 貞の泪を流さう 常仙	ゆ祈の尻に半尺の帯外 芦管
日笠は横へくうと結よぬ 貞屋	その噂人をたを子にけり 芦邑

柳う下八喜か、この風 貞山	柳子があふとて夢を夢に排 貞国
川風の骨かそはやせ居るを 風志	母秋の風の薪に世を、 芦管
百中あるは袋の袋物 有佐	窓をとらぬとて大首は墓 友里
りせゆひも非も松もちた月 常仙	村とこれと食は流のこもはり 貞国
松もた整れはるた月 貞屋	初定はにそは指の邊 芦邑
よかたも境か捌きは塔の下 有佐	月むのほへくめく指指は 友里
月代かちく素風とゆく 貞山	度夜の涼はあう古は 芦管
園結の心むらうるははそを 風志	子窓の形も陰の陰は若 芦邑

疾道へくしむまの流との貞屋

哥仙

ぬちやほふふのゆるる貞國

哥仙

上州藤岡連

あ仙の又そあらし葉抄一徳

料理の侍達と約は轉縁芦翁

ほし物のある巻おく持のこく

南方とあふ小洞糸の巻地一徳

あふれふ小洞糸の巻の月

野方の埃の柳帯あふる芦翁

松のまきにくへをぬの月貞川

跡も後ては千にまゝ存貞賀

全百姓の葉の留も後を葉抄と貞陸

井戸を汐のふいあふ貞隣

はき替て井奥の吐の物に貞宿

端を染てあふむく大西湖

色うけはをれお志向ふ膳

洋げく流る酒の鑑一徳

やんりうと赤あき雲の口車

風にこゆるは池の後鳥芦翁

あやまのあふむかひせ雲隠

風をふくとむとこをくる一徳

おえうまはれとやあき雲を存

まゝくくのうとく阻あ芦翁

縁日にすう合傘の延り貞笠

舟の帆を櫓と漕こむ湖雲

借生髪あふる料理まじり

踊り込みハロて封切ル芦梅

釣糸と糸とあふあき雲の語湖遊

あうくあひ河にれてま山塚

極えす隙のまう月條

旗とむハあんの大名東川

霍山

後部よの尻と作との石と仍

秋のぬのぬり入りのや一徳

探函の香もあつた月

秋もも風のかりる人込芦翁

名玉の村疆で踊の曲もつひ

あつたハ秋のたつとより一徳

川舟のむら一徳と入るくろ

秋葉のほも飽る鼻面芦翁

る好の瑞照とよりて牽て且山

日ハきろれく泊蓬会周賀

浦風もあつた月

葉の中うら学ハ在り文里

余面に一枝梅うとをゆりて芦遊

此ま當ハ曲乃秋ま貞陸

後物に彩する梅と一徳 湖雲

肝をりけるさし一私富貞宿

なんとも秋の風もあつた

星の光もあつた乃き一徳

世後のてとよとつた雲も併

確據ハ糸の米搗

活多くとつた心もあつた芦翁

名もあつた月

月雲もあつた心もあつた

田舎裏もあつた月

ゆらゆらとあつた月 西湖

飛上るとあつた月 鶴山

内袖の糸もあつた月 東川

後物に彩する梅と一徳 芦汶

石巻と二つとあつた月 周賀

名もあつた月 貞川

月雲もあつた心もあつた 貞隣

田舎裏もあつた月 湖遊

あつたま澄せしむる掬り

時とわふたむら園西

その判とけふがきりか合若芦翁

あつたま澄せしむる一徳

秋もふとむら花の山芦翁

要振すのそがと果考

哥仙

上州舟連

あつたま澄せしむるむらや貞笠

打水にむら花くそ妙子山瑠

獅子は林火の海、南去海若夕

中夜と見ると徳とむら文里

むらあつたま澄せしむる目山

やと半とむら紫く半のむら貞賀

長閑をそとむら徳のむら貞笠

哥仙

切愛のむら乃らむらあつたま澄せしむる貞鶴

怪子とむらる破碇の机貞山

丸合羽は着うとむらる不備好和

巻ふとく海と附て出れ松仙

今月の氣の清きる後、簾里川

棒のあつたま澄せしむる執筆

秋茅のまき表飛ふ空と危淵水

仕あつたま澄せしむる里水

あつたま澄せしむる松鳥

碇のむらむらむらむら貞翁

吹うとむらる不備好和貞橋

波もゆくとむら拵ふ好唄貞園

蓋とけしむらやむら貞雨

巻振葉とむら貞玉

杉植とむら夜のむら貞翁

あつたま澄せしむる貞鶴

大名のむらと海とむら貞雨

坊中町のあまきさく次里鶴

子あおの持へあく貞橘

能道に本履をきよみ南自性琴山

おの月花洲の空む杜あ貞玉

禿けさくし袖の澄ひ淵柳

何冷まきとまき春藤葉貞國

かまのうら後おとる月を青松仙

春の程の送者かきと挿て右貞鶴

虫物おびて虫に挿る好和

二階庭変へと茶園立芦翁

り秋を告ぐ戸の後加減貞笠

冬さけおの春もさる白拍子貞橘

松山湯治のゆるれい桐翠

口を吸きとれりて身貞國

お堂を南洋人と連歩り里水

晴さくはる風吹ひあゆみ貞雨

狂く若日ハ夢の夢執筆

やまのひは只たびとつゆ芦翁

名 七人の火の鼓の音。老は書琴山

名 切てお松高りた道雲貞玉

老教養の影くらわく松鳥

松山白くはる春さく貞鶴

意すてふ老後くはる松柳

うそ書きと女術者お松葉貞雨

さゆら杭かみさく横淵水

娘の夢の別離と持貞橘

一間は涼しく流る表く里川

かゝる時と戸の障か表れ中貞玉

あつはくは世の繁く貞笠

乞食の歌く友橋の下貞國

澄臺と福くと老あおれり好夕

十才に菊も咲いて後の身貞鶴

夕秋の予を此年の有るは里水

あやま首のつらむるは里水

うみまの海は里水

嫁の身を結とふは里水

ののと思へば里水

ふれ合ふは里水

伊勢の人は里水

丸葉の葉と枝は里水

葉と枝は里水

百姓の狗は里水

名揚の笑は里水

玉露の是代は里水

竹園ては里水

子乙女のへは里水

魁之は里水

檀弓は里水

吐上りて海をりて交松仙

見及にむのありて松島

佐保娘死の後に松山

半哥仙

湯て鳴葉うらや枝のかり木春

百姓の地は里水

生枝の酒宴にふつと貞里

括りし糸並海邊禪木春

風のかへ日海のそ中 芦翁

来もも二夜、海はれかの國 貞國

妻はれりて里水 貞橋

半哥仙

名揚の笑は里水

尻むせうの死は里水

危れ、大い人は里水

終はれりて里水

夕の初に考まうとて月足客 文耕 文引西風に接の括はる貞里 私凡此吹不付ても癖の置文耕 お見にいもれぬ生のち根貞里 の跡のそを流ひー銀不判木春 瘡のゆけてま町も息文耕 むきに介るやうなる杜橋貞里 岸不うくく場半もふ木春	沈やうの月と標行はる門 むりうをてかーう昭契芦翁 志たれの屋あうて秋と知 ぶあといふ草を情くう貞菊 志ぬひのはは流流とを流なる 置足ぬれの掃お出る芦翁 市さる喧喧の中半輝て 長生坊のまのまを人うる貞菊
--	---

上りかる登い志をうくまの志貞里 字作表れそくまい入相文耕 舟中虚病とつて志若の盡木春 秋目一八癖いもを癖の袖貞里 月歌にむ表の後むをー木春 蕨の折小柳ーつまき文耕	松松の流に月を流流し 河崎高次潤を人女をう芦翁 舟後り推え教う秋のらん貞菊 志のふと引流をう知意 終小癖の尾にまを若のむ終葉芦翁 こみつむひのひにまをう知意
--	---

半哥仙

半哥仙

熊笹の水亭とあうぬぬ月面 芦泰
 沈のを教てあう情吹なる 虎山

をく虫とをすくく 蟬 鳩 芦翁

おつそりと市の文書 柳子流

箕あふすの程をよ次に元 芦泰

こけ月ふる命よりきこ 小蓋

相棋の喧嘩 秋の障癖 芦翁

淋しきありやうと 湯の村 秋葉

髪を掃ひ込深へこの彦

人美の愛とつらんで 旅 夜 芦泰

柳のこふとを 掃ふ 秋風 貞山

月もさや大蓋にまじり 芦舟

絶のなきのさふい 待合 錦山

あやしあ人の拍子もま 袖 圓山

あく流す目のさふ 関さ 貞雨

本さうし和島牙れ 友本 貞山

竹輿とさあを 送きさう 舟 虎山

大さくを 産をさあつて ぬきり 錦山

をばか法とる 瘡のそま 髪

あふるの目 六法をばくさうせ

わろく打も地 震るをふ 芦翁

羽卵に春の湯 産ををのひ

並好う月 面も 悠そ

うけうと 秋をぬる 射松 芦泰

祿直の秋 法く 文の 尋常 哲

釣舟の身 けがらふ 松の 声

あ月の中に 根別 言 芦舟

手紙を 車に 乗せて 冬 貞雨

あてを 見ると とき 月 圓山

穢人の 地獄も 春 次 貞山

すあやう ぬきと 入 区 法 貞山

伴 改う 味の 標を けり 芦舟

まふれ せ 委 一 候 友 徳 錦山

荒法 陽 長 刀 春 ぶ ぬ の り と 貞雨

西塞の冬をよめる陸奥芦翁

半哥仙

祥雲の晴れをえりや杜若 圓山
破獨小破小破の虫千 貞山
利刀の砥をましくと吸月天 貞賀
掃除仕蕙の深を文書 桃里
冬田月に傳ふもまじは 虎山
掃後結て目望をくくる 貞雨

あふくもるの遊る山門圓山

半哥仙

あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山

神風と秋のそよみ松もすら 貞山
傘をさす傘の宿のく 圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山

あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山
あふくもるの遊る山門圓山

晴の空のりりとして見ゆるる 虎山
お道入小お道入とよきる 貞雨
芝草竹のりりたるとかりと 圓山
地の角につとむる系北貞山

半哥仙

夕阿改

社通ハ暮の角に丸秀小米成
かゝる猪きとある松の風
雲のほろ酒の香ももも

井戸端の水節とよき雲の香
和光の香と重んず放浪栄松
所車一政あきるおの山戸翁
これ福寿の種のおもき栄松

半哥仙

林氏

百姓の夕飯時と見たり素勇
風のゆるり月馬を提燈
子細をこれ十手に悦とよと

お刀持のこもれ脂きうと
おとろと来て飛越す月の際
かゝる牡丹に名なり一のを
清れくる我もたよとや返る厂
ゆと吐るし舟を中
粒珠の鉄布がらむ目釘弁
あ袖とよとて縁まきとゆ
蝶よれむき葉のまじり

雲流の勢を人のとたぬ
き丸の二弁の夜の歌うと
扱もよきに有るは夢目
紫晶の内のまじり弁を帯ひて
乳おに吐くのもまねの意
珠のゆるりこもる雲の精
燃ぬまねか雲と仕置る
まよとせしうと海をぬの門

あつたふらにあらうくぬた
本陳八江中家幕の幕と行
る古ふかそりる今沢の乃
深き松小枝て候し月
味香と焚中、張あす
お智八佳の向ふに畏や
あつたふらとあつた親父入

半哥仙

あつたふらにあらうくぬた
初穂小判しあてたてり
辰松風は味を張や
幼童と余りとをふかしく
あつたふらとあつた親父入
月あつたふらにあらうくぬた
小袖をふらとあつた親父入

半哥仙

初房の糞に濁るやあつたふら
月あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた

松原氏
貞州

あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた
あつたふらにあらうくぬた

上州小幡
貞州

其後の冷む所のむにか来水亀
 大門とまゝくく秋の空かへ菊籠
 酒のまろくにば右志のけき水羽
 眼とけり切投てまきちしし菊山
 牛の毒とある菊の傍水荷
 橋人のとををみる橋菊清水延
 汗をかく花後ハ秋 穂香菊要
 管れて菊は流の門の窓をさし芦橋

枕の骨もれをに爲帽子を
 法園のむれとへ本徳の奏芦翁
 本男と浮てもまへとまへへ
 車に舞ねぬ其の継く野牛
 片に云に終連く水合をや
 由教忍れす呪の息芦翁
 菊も弱く伸長果るを野牛

せんやうと女のまのさき水巴
 額帯のりく穴も吼りけり水亀
 和菊と菊香と名を相傳菊籠
 かの菊とねらうて穂菊は清水羽
 手紙うとまゝと菊もまゝ閑山

表白
 是格なきまの核も菊香不徳山
 後口はまゝくくまゝくみ天
 菊香もまゝくくまゝくみ天
 猫のまゝくくまゝくみ天
 かくは又まゝくくまゝくみ天
 道と揮ふ我も同じくまゝく
 松柏ふまゝくくまゝくみ天

裏白

ねんやうと女のまのさきと
 とく

表白

東氏

舞の富貴やむのつけぬ飛柿菴 貞至

晴也和玉の氣とゆらるる 芦翁

あやむつとんは兼は結されて 貞屋

旅うも鏡のありて 湖船

石管に古祝の詠の理をほし 芦翁

うた風をも命らうられ 貞良

先傳は故と後傳と入るる 湖松

五代の代に故の備録 貞屋

物巻てあやの約木の葉

秋さひは遠懐も生れつき

下あのか晴送るぬら

田舎のつゆの泣きうら 旅色

和佳文へのまきと吐出る

一かた半町中 花景

右の橋も世六日の門

四季

星川

あくと吐く露にいせうの松 貞至

宿を八接してひきうの音

あやむつとんは兼は結されて

を食うとんは兼は結されて

亦

あやむつとんは兼は結されて

法堂の火箱うか梨の音

秋の歌の句

あやむつとんは兼は結されて 貞山

半町中 花景

目や形次第にこれこそ是也

海苔もさうさうと様か

是に絶れなきは好れ落の音

又嘆やあやむつとんは兼は結されて

提菊や十二の人の統まり

むてえんはれあはれのとあはれ
仲や風入のふらふらあはれ

はれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

水仙のあはれあはれあはれ

奉納

あはれあはれあはれあはれ

江戸本石町十軒店萬笈堂英大助同平吉蔵板俳書目録

○類題之部

俳諧幾句五百題 春秋庵白雄房撰

小本二冊

同 新五百題 田喜庵獲物撰

中本二冊

同 新々五百題 全撰

全一冊

同 名所千題集 全撰

全三冊

同 今人東風流 洞海舎涼谷撰 一具庵一具校

全二冊

同

十方句集 全 校

全四冊

同

續故人五百題 一具庵一具撰

小本二冊

同

類聚 八朵園寥松撰

中本二冊

俳諧新發句類聚

全 撰

全二冊

俳諧發句類題

全 撰

全二冊

同

古今撰 燕菴蟹守撰

中本二冊

四季發句帳

白公七五三 艸丸大人輯
俳諧發句新類題 六合庵万里輯

全一冊
中本二冊

○句集之部

嵐雪句集 一称方峯集

全一冊

其角句集 坎窩久藏撰

小本二冊

蓼太句集

全六冊

吏登句集

全一冊

巢北句集

全一冊

完来發句集

全二冊

梅翁宗因發句集

全二冊

太無發句集

存義發句集

獅子眠發句集

柳居發句集

糗 杖 瓶

甲斐州九集

葛 甲 句 集

遠句の集

護物七部集

全一冊

○李寄之部

意の棗

華雪庵北元著

小本一冊

俳諧手挑燈

一名俳諧初心手引草

中本二冊

同 掌中小本

全一冊

俳諧四季名寄 季名寄大畵のありま
且名寄と附録あり

俳諧袖鏡 寸珍一冊

季寄使覽 一枚榻

のこむらぬ 横本一冊

俳諧通言 小本一冊

○文之部

新編俳諧文集 あつてもよめる
文とあつむ 全二冊

袖定規 表俳諧定座変体之図

七於集その外古物俳諧の变化あり産とま産より合
圖して二巻俳諧の自左と一目小尺やとくしむ

俳諧鴈 自初編今天保迄至凡三十編

○掌中寸珍物 海数ふよ小今今
集州とあつむ

掌中五百題初編 集州初編

同 集州二編

同 同 同 同 同 同 同

三編

芭蕉叢句集

集艸三編

其角叢句集初編

集艸四編

二編

集艸五編

三編

集艸六編

嵐雪叢句集初編

集艸七編

二編

集艸八編

同 同 同 同 同 同 同

乙由叢句集

集艸九編

蓼太叢句集初編

集艸十編

二編

集艸十一編

新五百題初編

集艸十二編

二編

集艸十三編

三編

集艸十四編

古今撰

集艸十五編

五

四

猶追々出刻

○假名遣物目錄

万葉用字格

春登上人撰

心葉集とみすまるとみすまのちりそく正任とみすまの巻
何々の生石とみすま

尚古假字格

山本明清大人撰

懷中
拆本一冊

紀元万葉の古辭のり多と撰

今古假字格

高井八穂大人撰

全
全一冊

古くはし今くはと合せ一冊にすは異同をいふ

對照假字格

長野美波苗大人撰

全
全一冊

定家うめ遣

新校

小本一冊

音便假字格

春登上人撰

全一冊

文豊堂のしるし

箱磨主人

